

に對する目的の理解と、之に對する自發的態度の喚起に主なる使命が横はつてゐるのである。そして各作業に對する技術的な詳細なる説明は却つて活々とした作業的態度になつてゐる兒童の實踐的雰圍氣を破壊し易い憂があるが故に、作業前に於ける作業目的の提示は、簡潔明瞭短時間に目的の明示を期するが賢明である。そして「方法は如何に爲すべきや」に就ての技術的指導はなるべく作業の間に於いて指導するが有效である。勞作教育は行はしめて知らしめる教育であり、力を發揮せしめる教育であるから、多くの事項を説明する前に目的に向つて先づ行はしめることが必要である。即ち目的達成の手段の選擇を兒童自ら行はしめて自發的に吟味せしめる事が必要で之に基づき實踐せしめて之が合理的に非ざる場合初めて示範的な指導が必要となる。之に反して示範を最初から與へる場合には兒童は自ら何等の反省をも加へることなく、直ちに指導者の範の儘模倣し易く此處には創造的な働きの否定せられる。のみならず兒童は自ら先づ勞苦して方法を選択し之を行つて見てその不備なる所以を自ら發見し指導者の示範を得て此の合理的なる所以を深く理解することが出来るものである。而して此の示範に基づき第二段の勞作がより合理的に實施せら

れる。その間に兒童は初めて技術の貴き價値を了得することが出来、之を實踐することに於いて益々眞の理解と其の力の發揮を體驗することが出来るものである。

但し土の作業の中には未経験なる兒童をして最初から示範を與へずして自ら實施せしめ示範に依つて修正せしめることの不可能なるが如き作業も見られる。例へば種播き作業の如き、一度行はしめて改めて行はしめることは困難である。斯かる場合に於いては最初に慎重な注意の下に示範を詳細に示さねばならぬことは勿論であるが、しかも尙作業一般に對する示範の要諦は以上の如き考へで臨むことが好ましい。

勞作進行に伴つて生ずる成果に對し、指導者は敏感なる態度を以てその成果の由つて生ずる所以を看取し、その價値を批判し、その成果の優良なりし理由を兒童に示し、不良なる結果の招來に就いての正しい批判を了解せしめ、此處に勞作完成上の總括がなされる。即ち作業批判が之である。作業批判は常に作業完成後の總評としてのみ與へられるばかりでなく、必要に應じ隨時行ふことを要する。此の場合は往々示範と結合して批判しつゝ示範する形に於いて爲されるのが有効である。



批判はその労作の技術的立場と労作過程に於ける作業態度を對象として爲され得るものであるが、就中労作過程の態度に重心を置く批判が價値を占めることは謂ふ迄もない。批判は決して批判の爲めの批判に陥入つては不可である。次に來るべき労作に對する明るき希望と熱意を育くむ爲めの反省を爲さしめてこそ作業結果の批判は初めて有意義なるものとなるのである。又批判は單に指導者に依つて爲されるのみならず、自ら實踐せる勞作成果に就いて兒童自らの批判をも尊重して自己批判の態度を陶冶する事が必要である、此の正しき自己批判の境地に兒童を誘導することこそ、勞作教育の大なる教育的指標の一でなければならぬものである。

#### 第四節 勞作成績の評價

土の勞作の成績を何等かの形に於いて評價せんとする場合には其の評價の對象を如何なる點に於いて爲すべきや問題は投げる點である。元來土の勞作は修身に匹敵し、生産科又は人生科とでも稱すべき性質を持つものであるから此の教育の目的に照して評價の對象

を見出すべきである。而して土の勞作の成果は努力、持久力、勤勉、出缺、技術などの優劣に於いて表現するものであるが、此の場合之を二分して努力、持久力、勤勉、出缺の如きを作業態度即ち勞作精神の表現として見ることが出來、他は勞作技術即ち作業能力とすることが出来る。従つてこの二つの對象に向つて勞作成績の評價はなさるべきものであらう。この兩者の價値を如何なる地位に評價すべきやは此の教育の目的觀に照して明白である。

従つて指導者はこの成績を實際に評價せんとする限り、常に勞作過程に於ける作業態度勞作精神の表現をより大なる價値に於いて評價し、技術的作業能力は前者に比し多少低いレベルに於て評價されねばならない。

#### 第五節 勞作園の施設經營

勞作教育の達成の爲めに採られる土の勞作の既述の如き教育的價値の發揮の爲めには少くとも勞作園は勞作道場として充分の施設が考へられねばならぬ。此處に勞作園の施設經營



管が問題となる。

勞作園の施設經營上の方針として考へられる事は一は土の勞作の形式陶冶としての目的を完全に達成せしむるが如き施設を有すること、他は生産結果を可及的大ならしめて、勞作園の自給自足的な目的を達成せしめることである。前者は結果よりも過程の陶冶を中心とし、後者は結果により期待を置かねばならぬ。故に此の兩者は矛盾を表す二つの指標と見ることが出来る。斯かる矛盾を克服するところに勞作園經營の苦心が存してゐて、指導者の苦勞するところも此處にある。

土の勞作教育が作業結果よりも作業態度の陶冶に中心を置くとしても在來の學校園で往々見られるが如く、その生産の状態が之と堺を接する農家の蔬菜園に比して、全く問題にならざるが如き状態にあつては、如何に勞作教育の價値を説き、効果を述べるとしても其の成果を以てして學校園勞作の價値も又一笑に附せられ、此の教育全體をして力なきものたらしめるものである。

換言すれば勞作教育の立場から見れば、寧ろ完全なる茄子や美事なるトマトの收穫は、

第二の目的を持つものであるとしても、その成果が相當の成績を挙げ、如何に過程の陶冶を尊重するとしても、蒔いた茄子が生育を見ず、トマトの收穫が皆無であつては意味をなさない。併し學校園の成果は經驗の極めて妙なき年少の兒童の努力的結晶として表現せられるものであるから之を以て直ちに永年本業として専念し、多年經驗を積める農家園藝のそれと對比して論議するなどは全く問題外である。けれども既に指導主義に於て述べし如く勞作結果のより良きを期することは主目的とする勞作過程の陶冶をより大ならしめる意味に於いても結果の良きを期することは必要である。此處に勞作園に於ける過程の陶冶と生産結果重視の二方針克服の意義が横はつてゐるのである。

從來多くの學校園施設經營の方針は廣く且各種の作業種目に當らしめんとする爲めに、餘りに羅列式見本園的傾向が強い。それは理科の教材園を兼ねる目的をも多分に有してゐたが爲めであらう。従つてその何れも極めて貧弱で大なる成果を見ることが出来得ない現状にある。従つて之に依つて自給自足の目的達成等到底考へられるものではない。筆者は理科教材園と勞作園とは目的が明かに異なるものであるから之が經營方針も自ら區別さる



べきものであると考へる。

前にも述べし如く勞作園の作業種目や品種は出来る限りその地方郷土に立脚して最も優秀なる成績を挙げ得るものを選択し、地方的な生産結果の優秀なるものを通じて勞作過程の精神陶冶に資することが必要である、従つて従來の學校園を土の勞作教育上より見る限り過去の標本的見本の方針を改め、寧ろ單調に過ぎても地方的成果優秀なる作業種目に依ることが望ましい。

而して以上の如き二方針を實際的に表現せんとする具體的一方法として勞作園を適當に二分して、一は専ら兒童の勞作態度の練磨に資する園たらしめて此處では餘り結果を問題とせず他は之に反して専ら生産の大なるを期待する場所たらしめ前者に於いては分團的個人的勞作を行つて、技術的な指導を行ひ、後者に於いては斷片的であつても共同勞作又は一齊勞作を實施せしめ、その數量に於いても大なるを期し優秀な成果を期待するが如き方針も興味ある一例と謂へやう。

勞作園の生産結果に關する處理の問題に就ては、教育上可成に興味を持つものである。

勞作教育が勞作過程の陶冶を尊重するが故にその生産結果の處理に就いては大なる考慮を拂ふ必要がないと考へるのは皮相の見解であつて、此の結果を以てして勞作批判を行ふ材料たらしめる外、草花の教室や校内陳列による情操陶冶や、品評會や試食會による批判力の養成、神撰米や初物を郷社や氏神に供進せしめて宗教陶冶との聯繫を計る等の効果を發揮せしめ、又之れを販賣して經濟化の過程を知らしめ、自己生産成果の經濟的價值に關する有效なる教育的取扱も可能である。従つて生産物の處理に對しても十分なる考慮の下に教育的に處理することが望ましい。生産物の販賣に際しては成可く兒童自ら自發的に之に當らしめ、その收支計算を明確にし、或は學校内に於ける自由販賣の形式で生産物を並べ價格を付し、之を各自自由に一定價格の金を拂つて持ち歸らしめる等の公民的な訓練にも資することが出来るものである。のみならず高學年等に於て一步進んで、經營的收支の計算による教育に迄つき進んだ取扱ひが出来るならば、興味と効果は更に一層大なるものとなるであらう。



## 第八章 土の勞作教育の實際

土の勞作教育が國民教育の實際上如何なる形式に於て實施せられ、結果を擧げつゝあるやに就ては此の教育が現行制度上未だ一教科として認定せられてゐないだけに實地經營の實際に就き多くの關心が拂はれる譯である。

本章に於ては此の教育の活例を示し、之が如何に實際的に經營せられ如何に價値を發揮せられつゝあるやに關し、活きた示唆を與へる事を主なる目的として本書全體の總括たらしめたい。

土の勞作教育として注目するに足るべき實績を全國的に求むれば、幾多の話例が得られるであらう。此の教育に就て絶えざる關心を持つ筆者としては出來得る限り話例を求めて其の實際に觸れ資料の蒐集に努力を拂ひつゝあるものであつて、斯かる努力は今後も益々進めたい希望を有してゐる。

而して本書に於ては之を都市教育と農村教育方面に分ち、實際例各二篇を選び参考に資することゝしたい。而して斯かる教育を農村教育の立場に於て見る限り多々論じ度き問題が残されてゐるも農村教育に關する論述は別に稿を改めて論ずることゝしたい。以下掲ぐる事例は筆者會て其の實績を訪ねて感激せしものであつて、誠に範とするに足るべき多くの業績を見出すことが出来るものゝみであるが、紙數の都合上興味ある其の一節を紹介するに止める。

### 第一節 農村教育としての活例

#### A 秋田縣由利郡西目尋常高等小學校の實際

本稿は永年同校々長として多くの業績を擧げられてゐる米山重助氏に最近の同校實際の紹介を乞ふた。讀者は同校の此の顯著なる教育に對する教育精神と、もに其の實際經營の苦心を校長自身の言に於て深く理解せられることゝ信ずる。記して此處に深甚の謝意を表する次第である。



一、全校に土の勞作を課する動機

1、失敗した農村教育 大正七八年の頃であつた。私は師範を卒業して農村の小學校に赴任し、思ふ存分の教育をやつて見たいと熱中して居つた當時の失敗經驗談になる。當時私は農村の子供だからといつて、決して都會に比べてそんなに素質が劣る筈がないと確信して居つた。即ち各教科書を忠實に教へては反復練習を怠らないで家庭と連絡をとつて家庭學習を勵行するといふ状態で、最初は随分ひどい程度の子供達だつたが、漸次學力が向上して來て、數年間連續して受持つてゐるうちに、教授といひ訓練といひ今思つて見ても、大體思ふ通りの成績が得られて、誠に夫れは愉快な經驗であつた。子供達はよく勉強して呉れた。わけて低能に近いS君、G君等は物覚えが悪いといつて、随分叱られもし、放課後まで残されて勉強を強ひられましたが、よくもあんなに従順にやつて呉れたものだと思ひ、今の私から考へても感謝に堪へないぐらいであつた。何時考査をしても、何學科でも成績が良かった。高等二年を卒業して農學校に入學したのも師範學校に入つたものも何れも好成绩であつた。卒業後直ちに家業の農業に携つた連中も皆よく働くといつて父兄に

感謝される。彼等は同級會を開いて毎月一回會合しては卒業後の生活狀況を報告し合ひ又將來を語つた。修身の時間に熱誠を傾けて勤勞を説き、忍耐力已等徹底的に理解せしめ得た結果を自信することが出來ると思つた。

然るところ、その年の八月頃から一人病み二人病み、眞面目な者から順に病臥する者が出て來た。最初は、さまで氣にも留めずに、直ぐ回復する位に思ふて居たが、中々以てそのは行かない。家庭に見舞つて見ると多くの者は胃腸病であつたが、中に肋膜炎といふものも居る。九月に入つてH君はひどく悪くなつた。H君は級中最も明朗純眞な青年で、頭も明晰であり、身體も壯健であり、級會などの時は花形役者といふ格だつた。三週間程病臥して惜しいことに遂に他界してしまつた。

教育の成績頗る顯著といふことで、喜んだのも束の間であつた。かうなつては、何か有力な原因があるに相違ないと思ひ、自責の感に堪へぬものがあつた。同級會の開かれた時に皆の意見を叩いて見た。すると、一人か口を開いて曰く「眞面目に本氣になつて毎日農業勞働を續けるなら誰れだつて病氣をするに決つてゐる」と。



私は、ひどく考へさせられた。小學校に入つて八ヶ年間教室の勉強専門に、尙足りないとして家庭學習も強ひられ父兄も學校に在る間は己むを得ないとして、忙はしい時でも遠慮して家業を手傳はさせなかつた。教室で教科書の勉強に専心するのが、教育の全部と考へ、教師は教科書にあることを深く布衍することに努力し、子供も父兄も知識の記憶に於て他の子供に引けをとりたくない、とらせたくないとして努力する。高等科になつて農業科が課されても、一人の生徒に畑の畦一本も當らないといふ様な狭い實習地ではてんで問題になつてゐない。そして、さて卒業したとなると、百姓になるわけであるが、卒業式の翌日から終日田圃に立つて労働せねばならぬ。丸で木に竹を接ぐところではない變化である。八ヶ年間肉體の労働訓練を一向疎かにして置いて、頭だけに勤勞だ、克己だ、忍耐だと教へ込んで置いたのであるから、學校の先生の教訓を正直に眞面目に受け入れて居る者程、卒業後の勞働に到底堪へ得ないことは誠に當然なことであるといはねばならぬ。私は、本當にそら恐しい經驗を持つたものである。同じ要領の教育でももつとあつさりやつて居れば、あんな失敗はなかつたのに、馬鹿に眞面目に眞剣に間違つた教育に没頭した

罰で、子供達を苦しめ、惱まし、甚しきに至つては死にまで至らしめることゝなつたのである。かうなると、比較的眞面目でない者、眞剣になれぬ者の方が、無理な勞働を避けた爲に病氣にもかゝらずに済んだ様な結果となつた。級中體格の一番優れた、而かも一番眞面目だつたT君などは最も徹底的に病臥してしまひ、翌年の半ば頃になると、醫師にも見離されてしまつた。後に信仰の生活に入つたお蔭で命だけは助かつたが、其の後職を替へて今は教育者となつてゐる。

其後數年振りで此の間、その村を訪ふて見て悲觀せざるを得なかつたことは、學校で成績のよかつた者は大抵皆教員だ、巡查だ、農業の先生だといふ風に發展して居るまではよいとして、現在村に残つてゐる者は、學校の成績の悪い者でどうにもならぬ者、乃至は家庭の事情で、どうしても家から離れることのない己むを得ない者だけの様に見受けられた。己むなく家に止まつてゐる者、若くは劣等生として諦めてゐる者達で、どうして今日の農村は眞面目に守られやうか。果せるかな、小作爭議が起り地主小作の争となつて、眞面目な者までが狂氣で騒ぎ立てることになり、一村擧つて自暴になるといふ状態で、氣の



利いた地主は他に轉じて不在地主となり村は力の競争場となり、心臓の強い者に無理を通されて、醇朴な、人柄のよい農村の人達は影をひそめねばならぬといふ状態を表した。そして十年心血を絞つた教育の結果が、恐しく淺ましい状態を見せつけられることとなつて居るではないか。

2、農村小學校理想の形態 前任地での失敗で、目が醒めた様に、農村小學校、夫れは恐らく全國のすべての農村小學校がとるべきであらう形態について、深刻な反省を與へられた。

校舎は幾ら立派でもよい。設備は整ふ程結構である。從來、農村の人達は利己的根性が餘り強過ぎて、自分のことには金を惜まないが、公共事業に對しては吝嗇過ぎてゐるからもつと學校に金をかけなければならぬと思つてゐる。特に大事な條件は、農村の小學校は農場に取り圍まれて居り、果樹、蔬菜、家畜家禽等其の村の發展のために役立つ生活環境を具備した學校でなければならぬといふことである。學校は農村に於ては、其村を代表するに足る大きな農家の如くでありたい。學校の農場には其村の適産物が合理的に模範的に

栽培されて居ることを希望する。又其の家畜舎には村の發展上、地方の繁榮上是非必要であるといふ家畜、家禽が模範的に飼育され管理されて居ることを切望する。兒童生徒は國民教本である全國一様の教科書によつて國民としての教育を受くると同時に、村民として地方民として最も大切な性格の訓育をば斯かる學校環境に於て遺憾なく受け得るといふ風にありたいものであると考へたのである。

結局、農村を眞面目に守る大切な性格は、幼少の魂に呼びかけることによつてのみ養はれる。而かも、農村に於ては幼少時から、筋肉に於て土に、農事に親しみ、土と退引ならぬ性格の人間を養成するにあらずんば、農村永遠の發展は望まれぬと確信し、國民教育を西目村は西目といふ郷土の生活環境に、はつきりと立脚して實施せねばならぬと考へ、今日の如き勞作を可なり豊富に取り入れた學校形態に進んで來たわけである。兒童の心身發達の程度に即した土の勞作を尋常一年に入學の當初から合理的に、教育的に課すことによつて、農業に興味を持ち、農村意識の高い、終生眞面目に農村を守り通せる性格の人間を作ることが出來、そこには學校生活と家庭生活との調和が保たれ、眞面目な卒業生は農業



労働に堪へ得ないといふ様な不合理が取り除かれるのである。

## 二、學級園經營の實際

1、學習園の概要 私の學校に於ては、約三町歩の所謂實習地と、養畜、養鶏、養兔、養蠶等を含む動物飼育の一切を合せて學習園と稱し、最初から獨立した特別會計として經營して來てゐる。

以上の外に校地外に於て、學林十七町歩、學校演習林十五町歩、學校採草地一町五反歩を經營し、學校前道路並木になつてゐる櫻樹十八年生七十本の手入保護から、學校裏山、之れは將來學校有になる見込のもの七町歩の松林山に紅葉を移植し、之を手入すること等を兒童生徒の作業範圍として、矢張學習園經營の中に入れて考へてゐるのである。

經營計畫は、大部分青年學校の農業科専任教員によつて樹てられ、高等科兒童の勞作が主となつて、實習が行はれる。中に除草とか、掃除とか、果樹の袋かけ、收穫等で尋常科兒童の勞作に適する作業は、其都度低學年兒童の實習となるのである。其の實習過程を毎週土曜日に間歇的に出校する青年學校生徒の農業學習の生きた教材に供することになつて

ゐる。そして又、村民一般に對しては、村立の模範農場の如くあらしめたいといふ念願であり、現在どうかその目的を實現しつゝあると自負してゐるものである。

2、學級園 學習園の中に一反九畝歩の學級園がある。一學級につき一畝歩づゝ一年生から尋常科の各級に分擔せしめてゐる。一年生が入學して來ると、前年六年生が擔當した學園區の一區劃が、新入兒童に配當され、それが尋常六年卒業まで、その級の小作地に當てられるのである。尤も尋常一年生だけではむづかしいから、六年生が手傳をして呉れることになつて居り、二年生に對しては五年生が手傳をしてやることになつてゐる。學級園の經營は受持教員を中心として全然その級に任せてある。學年始めに當つて受持と兒童と協議の上自分の學級園の經營案を作り、農業の先生から指導を受けて修正したものを學校長に提出する。種苗、肥料等資本の全部は特別會計から支出する。

農具といつても主なるものは鋏だけであるが、之も特別會計で特製してゐる。即ち兒童の體力に相應した目方のものを貸與する様になつてゐる。尋常一年生用なら、百匁から百五十匁程のおもちや見た様な鋏である。それから百八十匁、二百匁、二百三十匁といふ風



に各種の鋏を百二十挺程備付けて置いて、児童各自の體力に應じたものを使へる様になつてゐる。従來小學校の児童が農業を嫌つた一つの原因に鋏の問題がある。學校で農業實習の時間があるといふと、家庭から父兄が使ひふるした古鋏を借りて出かける。第一児童の體力に比べると目方が重過ぎる。身長に比しては大き過ぎる。而かも鋏の先が減つて丸くなつてゐるから思ふ様に使へぬ。重くて大きいから児童はすぐ疲れてしまふ。農業といふ仕事は馬鹿に難儀なものだと思つてしまふから、賢い児童はなるべく誤魔化しを考へて勞を避ける工夫をする。鋏先が丸くて一向思ふ様に耕されぬから嫌になるのもあたりまへである。それで私は最初から、児童の體力に應じた農具といふことを考へそれを實現したわけである。

3、農業的性格の育成 なぜ尋常一年から、土の勞作を課するかといふ質問を時々受ける。その理由は前にも述べてある様に、農業的性格の育成のためである。國民教育をして同時に郷土發展の教育たらしめんがためには、須らく郷土發展の諸條件を根本的に研究者慮してかゝらねばならぬ。そして極めて幼少の時代から、之が基礎教育に留意せねばならぬ。

ぬ。

農村は土を離れて生活が成立たない。農村の人達は、心から土に親しみ、農業を愛するといふことが抑々農村發展の根本問題であると信ずる。土に親しめ農を愛せよとは、口先の教育でも絶叫することが出来るが、之等を眞に親愛せしむるには、幼少の頃から筋肉的に親しむるを最も適切と考へる。筋肉による經驗は終生其の人の性格となるものであるからである。

4、全校一心の訓練 現行教育制度により、高等科だけに農業を課する場合は、農業なり、農場なりに關心を持つ者は、勢、高等科の児童と、農業擔任教員だけに局限され易い。事實その通り局限されて居る學校が多く見受けられる。農業のことばかりに限つた話ではない。何學科でも、何々の施設でも、全校の職員児童生徒が一心になつて關心を持つてなければ、決して豫期の教育効果を齎らすわけに參らぬ。此の點私の學校の現状からして又今日までの経過を反省して、是非かくあらねばならぬと確信する。

5、土の勞作時間 尋常科の勞作時間、即ち學級園の作業時間のことであるが、之は各



級とも一週一時間を特設してある。而し作物や動物相手のことであるから、當番制によつて毎日、朝始業前、晝休時間、放課後等夫々手入を怠らぬ様に組織してゐる。日曜、祭日は勿論、長期の休業期間に於ては、嚴重に當番制が實行される様に決まつてゐる。早魃つづきの際などは、早朝又は薄暮に學級園に水を灌ぐ子供達を折々見受ける。

最初世間の人達から、男教員は兎も角、女教員にも強ひることはどうだらうと、大に危ぶまれたのであつたが、事實は必ずしもそうではなくて、私の學校の女先生達は、雨上がりの日の放課後などは、申合せた様に作業服も甲斐々々しく、頬冠りに褌がけで人糞尿等の肥料桶をかついで學級園に出かける。あの姿を兒童達に見せたゞけでも、所謂農村的な性格の育成にどれだけの効果があることであらう。先生達は農場に喜んで出る。校長も農業をやる。女の先生達も肥料桶を擔ぐ。斯くして始めて作業の時間が兒童に歡迎されることになると思ふ。

6、學級園栽培作物系統案のこと 本村の農家が現在栽培してゐる作物は約七十種ある之を難易、興味等の諸點を考慮して、尋一から尋六までに配當し、各學級に十二種づゝ栽培せしめ様とし、農業の先生に頼んで一々栽培管理の指導案を作つて貰ひ、最初實施にかつたのであるが、何分松林を伐採して開墾したばかりの砂地であり、整地の際に必ずしも表土が上になつたのではないから、土壤がひどく瘦せて居り、それに土地が高く、地下水の著しく低い處もあるといふわけで中々希望通りには出來なかつた。殊に現在學級園に當てられてゐる場所は、條件に恵まれてゐないので、到底系案の實施は困難であつた。最初は職員中にも農業に經驗のある者は少かつたので、當分餘りむづかしくないものと言ふことにして夫々の學級に一任することゝなつた。只理科其他の教科と連絡をとり、教科書に出てゐる作物で栽培して見ることの有利なものについては、なるべく學級園に作ることにしてある。

7、他教科との連絡 學習園の測量實習によつて面積に關する學習が誠に適切に行はれる。こんなに實用的な算術學習は教室内では夢にだけしか見られなかつたことである。役場に備へ附けてある本式の測量機も時々は借りて來て實習をさせられるし、五十米、百米等の卷尺を備へてあるから兒童は自由に測量が出来る。面積の目測練習も行ふし、學習園



を取り囲む木立の高さ、学校の校舎の高さ、さては遠近の部落、高地、山岳等までの距離目測歩測等にまでも發展出来る。學級園の畦の數、一畦の播種量又は栽培本數等によつて實際的な乗法や除法の算術も出来るし、やがて收穫期となつては、收穫物の分配方法等の考究も行はれる。算術學習に裨益すること誠に大なりといはねばならぬ。

又學級園日誌又は其時々作業を題材としての綴方、感想文等により、兒童の綴り方の能力を具體的に向上せしむる方法となるし、作物はそのまゝ圖畫に寫生の材料を與へる。殊に特筆すべきことは勤勞、忍耐、克己等の作業訓練、他人に對する禮儀、寛容、推讓等の諸徳目から、協同、分擔、責任等の社會道徳に至るまで、宛然修身で學習した事柄の實踐場の觀があるのである。指導の目を抜け目なくすれば、本當に學習園作業こそ眞に合科學習そのものになると思ふ。

わが校ばかりではあるまい。國民教育上兒童の言語矯正の問題は、學習園作業に當つては兒童の生活語そのまゝのものを聞くことが出来るから親切な態度で、之が矯正に當るならば最も自然の状態に於て、方言、訛語を矯正する最好の機會であるわけである。かく考

へ來るとき、生活指導の教育は、土の勞作乃至は之に類する作業教育なしには實習困難であるときへ考へられる。

8、情操の陶冶 學習園には春から秋まで各種の草花が栽培される。冬期は温室によつて寒中にも教室に花鉢が配られる。わが校秋の學習園の如きは、砂地に最もよく適すると思はれるコスモスの花が農園一ぱいに咲く、丸で極樂の様な感じがする。時々教室や來賓室に飾られる切花は、何時でも農場に求められる。年を通じて美的情操の教育は自然の間に行はれる。

次に學級の試食會のことに及びたい。馬鈴薯、葱、甘藷、南瓜、豆類、野菜等は其の級の畫の副食物として、味噌汁などに料理され各教室で試食される。教室氣分、教師と兒童との感情の和らぐこと實に夥しい。苺やトマトや、西瓜や、瓜類等生食するものは、其の學級の兒童全部に分配するに不足する場合が多い。この場合は、學習園主任の先生に申出ると、その方から不足分の補給が受けられるといふ様に約束されてゐる、情操教育こそは到底口先のみでは出来ない。環境で、生活で、體驗で味はせて行かねばならぬものではな



いだらうか。

### 三、學習園經營の實際

1、高等科の土の勞作 三町歩の農場作業は主として高等一二年の男兒童によつて行はれてゐる。心身の發達段階から見ても、職業的陶冶を行ふ最も大事な時期に相當してゐるのである。本校に於ては、一週七時間を正科として課し、實習時間は、場合によつて延長されることのあることは當然であるし、學級園以上に當番制による活動面の多いこと勿論である。

尋常一年から訓練されてゐる兒童は、高等科となつては實に眞劍になる。作業服も特別のものを着用するし、鋤始め農具は段々大人ものに近くなつて來るし、農場の作業はすべて模範農場を目標に行はれ、木村一般當業者よりも一步先んじた農業を行ふことになるから、中々以て張合がある。高等科の兒童の農場に出た氣分によくそれが窺はれる。以下其の片鱗を摘書して見ることにする。

2、神饌田について 農業本位の國である我が國古來の考へ方として、農事を神の御業

と心得、確固たる信念を以て之に當るといふ所謂百姓の根本精神を啓培せんとして神饌田を經營してゐる。

之は昭和二年四月、今上陛下御即位御大禮記念として設置したもので、學校實習田の一部に之を設けたのである。面積は二畝歩で、品種は陸羽百三十二號に決めてある。職員も兒童も慎重な態度で之に當るのであるが、春の田植祭、秋の獻穀祭には、神官に依頼して壯嚴なお祭りが行はれる。此の時は全校の兒童が參列し、春の祭りには全兒童に神饌のお菓子を分與し、職員並に高等科兒童で作業奉仕者には晝飯に大豆粉飯を饗する慣例になつてゐる。此のお祭りで、神饌田の周圍には青竹が立てられ、注連繩が張られるので、村の人達も相當に緊張して見て呉れるのである。秋のお祭りは獻穀祭をかねて講堂で行ひ、此の時は學習園で出來た色々めづらしい收穫が澤山神前に備へられ愉快な氣分の横溢したお祭りが執行される。この前後に各級思ひ／＼に學級園よりの收穫物の試食會が開かれることになつてゐる。

奉納米は、高等科兒童總がかりで、粒選精白し、白布の袋に入れて、檜の箱に納め、伊



勢皇太神宮、明治神宮、村社二社に夫々奉納するのである。

3、水田裏作の試み 東北地方は氣候の惠悪く、時々冷害に見舞はれる様な状態で、水田の二毛作などは問題にされてゐないが、數年來色々試験的にやつて見るに、馬鈴薯と春蕪は確實に裏作として適當であることが分かつた。蕪や玉菜や其外様々の試験をやつて見たが、田植時期の関係で、どうしても六月二十日前に收穫し得るものでなければ稲作に影響するので落第してしまふ。紫雲英も有望な様である。村の熱心な青年達は、少しづつ試みてゐるが、何れも好成績の様であるから、將來は精農青年によつて相當の成績が擧げられることが豫想される。

4、甘藷 十四年前までは本村で甘藷を作る者は只一人しか居らなかつた。昭和二年の春本校は移轉改築によつて、現在の新校舎に移つた際、學校の裏山を開墾して試みた甘藷は、秋になつて大した好成绩を示した。職員も児童も豫想外の成績に狂喜したことを記憶する。これが村中に傳つて、昭和三年の春からは熱心なものはそろ／＼植え始めた。熱心ではあるが、苗を買はなかつた者は、學校の畑から植付けた甘藷苗を抜き取つて行つて、

自分の畑に植附ける者なども出て來て學校では何べんも植替へねばならなかつた。苗は求めたけれど、植方を知らないで、父兄の人達は尋常四五年生の子供から甘藷苗の植え方を教へられたといふエピソードもある。適産は非常な勢で發達し、年々植付の面積が増加し、數年の後には本村は甘藷の特産地の様に縣下から目されることになり、今日では附近の町村のみならず、殆んど全縣各地方に擴がつて栽培されることになり、本校もその動機を與へ得た點に於て心竊かに、喜を禁じ得ないものがある。

5、果樹園 之れも主として高等科児童によつて手入されてゐる。林檎、桃、梨、葡萄、柿、李、櫻桃、無花果等面積にして約六反歩を經營してゐる。本村は相當果樹の適地であるにもかゝらず、十年前までは果樹らしい果樹の栽培されたことを聞かない。偶々思ひついた者があつても其の結果を見るまでに至らなかつた。殊に本村耕地の約半分を占めてゐる砂地帯の利用といふ見地からも、相當果樹が有望と見たので、昭和二年の春、紋上の如き果樹を植付けたのであつた。當時色々反對の聲を聞いたのであるが、確信の前には何等問題とするに足らなかつた。爾來幾辛苦の結晶として、今日の成績を見るを得た事は



誠に快心に堪へない。殊に農業専任の先生の苦心は言葉に盡くせないものがある。各種果樹の剪定法等に就ては今以て確信を得る程度に至つて居らないが着々として研究の歩を進めて居る。學校農場で成功して見せると、面白いもので、村の熱心な青年は必ずそれを真似て来る。卒業生は亦卒業を待ちかねて自分の家でやつて見るといふわけで、別に奨励する必要がない。獨りで、自然に擴がつて行く。農業の指導は、立派なものを作つて見せるに限ると思ふ。熱心な者から順次眞似て来るから、その時に當つて個人指導をすると失敗する者は減多に出ないのである。指導者自身が経験もせぬ癖に、口上手に奨励したりした農業の指導こそ過去に於て失敗してゐると思ふ。學校の畑に負けまいとして桃畑が勢よく出来て来る。學校の向ふの臺地には林檎の二十町歩計畫が熱心家六名によつて着々と進行してゐる。もう本年當りは相當に收穫が豫想されてゐる。初成りの林檎は、お禮に學校にといふて頂戴したときの嬉しさといつたら、全く何ともいへなかつた。桃も梨も有望であるし、葡萄もよく適する。柿も無花果も皆よく出来る。今數年を経てば、本村は果樹でも相當の収入を豫想することが出来て本當に嬉しいことである。

6、養鶏 當地方への養鶏は、過去に於て品評會用の名鶏熱に大分禍された。鶏で破産した者まであるといはれてゐる。今日實用鶏を極力奨励することになつても農村の用心深い百姓達は中々以て乗つて來ない。養鶏組合では、育雛をやつて五十日雛を希望者に配布し、飼料は共同購入を行ひ、卵は集卵人を置いて毎日部落を巡回せしめ、各戸に就て之を集め、共同販賣をしてゐるが、思ふ様に其の成績が擧つて來ない。學校で子供達に養鶏をやらしてゐるのは、幼少時から鶏に親しめ、所謂副業的な性格を陶冶してやりたい意圖に外ならぬのである。かくして育てられた卒業生は、父兄の反對や色々な難關を乗り越えて漸次組合員となり副業養鶏を營む様になつて來てゐる。教育の力は強いものである。

7、養畜 牝馬親子二頭、牡牛親子二頭、綿羊三頭、山羊二頭、豚二頭、兎三十頭が家畜舎現在の家族である。

西目馬と言はれ昔から本村は相當の馬産地であり、山が多く従つて山草に富んでゐるから、良馬を産する村と目されて來た。然るに近來著しく産馬の數を減じ、尙漸次減する一方の様な状態にあることは、何に起因するであらうか。經濟上の問題を始め色々あらうと



思ふが、その一つの原因に、青年が馬を好まぬ、愛馬心が薄れて來てゐるといふことがあ  
ると思ふ。先年私の學校で、農場に働く一人の青年を傭入れた際に、その青年は學校に馬  
を飼ふことを希望して曰く、馬が居ないと朝夕さびしくて困ると言つた。この青年は幼少  
時から、馬と共に生活して來た者であるといふことを聞いて、なる程と思ひ、幸、學校で  
も馬が欲しかつたので、早速買つてやつた處、その青年は非常に満足して喜んで馬の一切  
の世話をして居つた。今日の多くの青年は馬を飼育すると、朝夕の手入世話がうるさくて  
困る、厄介で困ると思つて、下男などで他家に傭れても、馬を粗末にするから、主人も其  
の意を察して、二頭居つた馬を一頭に減らし、從來、二頭三頭を飼つて仔を産ませたもの  
が、段々仔取りを止めてしまふといふ譯で、村から年々出る仔馬の數が減じ、村全體の頭  
數が段々減つて來たのである。學校では愛馬心を養つてやりたいといふことが主目的で養  
馬を實習せしめてゐる次第である。

次に育牛に就てゝあるが、農村の營養問題、殊に病者の營養、幼兒の營養等から其の必  
要を感じしめられ、岩手縣の小岩井農場から、乳牛一頭を購入し昨年四月初産で牝を分娩

し、一日に多い時は一斗三升の乳を搾つたのである。多年憧がれて居たところの、村内貧  
困病者への無料配給と、虚弱兒童への實費配給を行ふことが出來て、實に愉快であつた。  
今、二回目の分娩期を目前に控へ三頭とならんとしてゐる。將來は乳牛二頭として、年中  
繼續して以上の目的に對して配乳の出來ることを希望してゐるものである。

緬羊は將來村の人達にも奨励したい方針で飼養して居り、山羊は溫和で子供達が可愛が  
つてやるに都合よく、豚は馬を持たない小農家にすゝめたい目的で、又兎は村の方針とし  
て將來うんと奨励する意味で夫々子供達に飼養せしめ、愛畜心を培かつてゐる。

8、養蠶 本村に於ては、現在養蠶の飼育戸數が僅か七十戸に過ぎないが、村の方針と  
して將來、うんと奨励することになつて居り、桑園の擴張計畫を樹て、着々之れを實施  
してゐる。夫れで、それには先づ學校からといふことで、十數年前から、兒童に養蠶實習  
を課してゐる。毎年七月下旬に掃立てをし、八月の夏季休業に入つて上簇する様にし、其  
の間兒童達は組々交代して學校に宿泊し、飼育することになつて居る。養蠶の指導教師の  
言では、學校で養蠶をやつて呉れるので、村の人達に養蠶を奨励するに、迎ても都合がよ











しよる鑿け方、それに校長が校地内に住宅を持つて居つて本當に採らなければ、職員は無  
論採るものではない。職員が本當に採らなかつたら、それを手本にして學んでゐる兒童は  
亦決して採るものでない。八百名の兒童が誰れ一人採らぬものをどうして村の青年や大人  
達に採られませうか。かくして、私共の學校の農場には、非教育的な不快な事件の發生を  
見ないこと既に年が久しい。

10、學林と學校演習林 學林は面積十七町歩で、明治三十九年栽植の杉の一齊林である  
可なりの成績で、既に電柱位のものになつてゐるから、現在は手入といふ程のことをやつ  
て居らぬ。

演習林の方は面積十五町歩で四年前から經營に掛かつたものである。周圍に防火線を築  
き、縦横に道路を通して、一町歩づゝ十區に區分し、一區分に一種づゝ都合十種の樹種を  
植栽する豫定で、昨年までに既に植栽済のものは、栗一町歩、樺一町歩、檜一町歩の三區で  
ある。本村は村有林として、壹千町歩餘の美材を有し、小柴採取地は戸數に按分して各部  
落に配當され、秣場も同様に整理されて居り、山林經營に於ては、他の模範となつて居る



位であるから、小學校に於ても早くより山林に關する知識を與へ、保護管理上の基礎的訓練を施して置く必要からの施設で、高等科兒童の外尋常五六年生は年々數回作業に出かけるのであり、毎年秋の全校遠足は、學林に決めて實施して來て居る。

11、櫻樹の手入と紅葉山 學校の前、道路並木となつてゐる櫻樹七十本の手入は、早春高等科兒童によつてなされる。冬季間雪に折られた枝の整理や、剪定の作業である。農村の一般は殊に當地方では公德心が低いので、以前は随分亂棒に枝を折られたり、皮を剥がれたりしたものであるが、私はこの櫻の並木を、村民の公德心向上のバロメーターに考へ毎年四月二十日頃開花期を目前にして各幹々に、宣傳の文句を書いた札をつけ、枝々にはこれ亦町民教養向上のための標語、詩歌、金言等を書いた短冊をぶら下げることにして學校行事の中に入れてある。兒童の手入作業と相俟つて、私の村民に對する公德心向上、利己心緩和の念願の機會と考へ十年以前から之を繼續してゐる念願が通ると見えて漸次其の目的を達しつゝあることは喜に堪えない。

學校の後方の山に約七町歩の松林がある。樹齡が六七十年を経て居り現に保安林になつ

て居る。村では將來之を校有地にして下さるそうで、昨年から青年團の手傳も受けて、松の樹の下に紅葉を植栽して居る。直ぐ學校の裏手になつて居るので、防風林としても、風景林としても、殊に夏季の林間學習場として理想的な處であり、兒童、生徒達が、將來自分達の弟妹のために手入に専念してゐる有様は本當にいちらしくも見える。

12、勤勞賞 個性教育は農村に於ては、先づ身體活動型か精神活動型かを見ることに出發せねばならぬ。祖先幾十幾代農業勞働を以て生活し、之によつて家を建て社會の義務を果し、之によつて國家に奉仕し國民たるの義務を行つて來てゐる者の子孫である現在の農村の兒童達を見る時、常識で考へても、餘りにも從來の學校教育は此の大きく見た兒童の個性に氣のつかない教育でなかつたか。遺傳といふことが今日醫學上から考へられて居り祖先の血を受け、祖先の作りなした家風に育ち、父母の感化を多分に受けてゐる農村兒童に對して、學校では餘りにも知的に偏した取扱に過ぎて居つたことに氣がつくのである。現に、教室では一向元氣の出ない兒童でも、農場に出して働かせると嬉々として蘇生したかの様な元氣で働いて居る兒童を折々見受ける。祖先幾十代受け繼いで來た傳統の精神が



活躍してゐることを頷づかせられる。此の何人も疑ふべからざる事實を忘却して、農村の教育が行はれて来た處に大きな無理もあり、行詰もあると思ふ。

私は十數年來、學年末の優等賞に並べて勤勞賞を授與して居る。學力の優秀な者必ずしも勤勞賞を貰ふと限らぬ。卒業生に就て見ても、勤勞賞を貰つた者の方は遙かに農村生活者として適し、事實有望である。勤勞賞に對する兒童の態度、村民父兄の關心が高まつて來るにつれて、私の農村教育は村に、社會に理解され歓迎されて來て居る様に思はれて嬉しい氣がする。

#### 四、青年學校並に一般村民への聯關

紙數の都合で、簡単に述べることにする。農場は、學習園全體が青年學校の農業の先生によつて計畫され、高等科の兒童を中心とする全校兒童の勞作によつて經營が進められ、其の過程を一週間に一日づつ出校する青年學校生徒の農業學習の材料に供することになつてゐるから、教育的價値の大部分は小學校で占めてゐるのであるが又、考へ様によつては青年學校主體の農場でもあり、それが村の現在並に將來の産業を指導するといふ點に於て

村本位とも見られるのである。何れ尋常一年生以上小學校兒童の勞作場であり、青年學校生徒の産業研究場であり、一般村民に對する模範農場であるので、本校の學習園は本村の發展上極めて重要な役割を擔當してゐるのである。

青年學校の農業はなるべく教室でなく、圃上で實地について實物によつて學習することにしてあり、卒業生は愛農俱樂部と稱する農業研究のための團體を組織し毎月一回會合し農會と連絡をとつて着實な研究を進めて居る。本年からは産業躍進共勵會を組織し、青年團員を動員して、農事の躍進計畫書を提出せしめ、實行經過並に其の成績反省事項を記載せしめ、農會、青年團、青年學校の三者協同して之を指導し獎勵することになり、五ヶ年計畫を以て大に村産業の進展を計らんことを企圖してゐる次第である。

本村が昭和六年一月以來實行して來てゐる新經濟政策並に本年から實施してゐる本村文化計畫の實行に當つて、其の基本となるべき農民精神の涵養、乃至は農業經營の根本的改善策としての副業的性格の陶冶等重要なる基礎教育を思ふ時、幼少兒に對する土の勞作の教育的價値が如何に廣く大なるかをしみじみと考へざるを得ない。



## B、滋賀縣坂田郡六莊尋常高等小學校の實際

本稿は前回同様最近の同校の實際を學校直接の紹介文に求めんとせしところ校長の異動に依り其の意を得ず、止むなく曾て筆者視察の際與へられた同校發行の「六莊教育」(小學校篇)中より適當と思はれる部分を摘出し同校の光輝ある實際を示すこととした。

### 一、愛土教育の實際

#### イ、本校愛土教育の信條

本校に於ける愛土教育は兒童心身の發達に留意し健全なる心身を養成し、自然に親しませつゝ全人教育のために精進することである。かくして自然に對する信仰、研究的態度の養成、奉仕的精神等その勤勞を通して國體的に訓練さるゝ所に意義がある。そこに高雅なる趣味高潔なる品性といふものが養はれ、各種の實踐的方面の原動力となりて修練され、文化的價値の實現を期することが出来る。健實なる勤勞は單に勞作教育等といふ小天地に止るでなしに、その具體的なる環境に依りてより健實なる郷土の建設運動であり、彌榮え

行く皇國の日本精神を發輝せしむる世界人としての皇民として貢獻する所大なるべき郷土教育乃至は公民教育的色彩の多分なる全體的で而も統一ある實存の教育である。

本校に於ては斯かる考へのもとに小學校令並に本村教育是、本校教育要覽、本校教育信條等の示す所により、左の綱領を目標とし、夙にその事に勵精し奮勵努力以て初期の目的を達成し、萬遺憾なからしめんことを期すものである。

- 一、土に親しむ教育を施し、自然愛好の精神を養ふ。
- 一、郷土に立脚し郷土愛、宗教的感情の啓培に努む。
- 一、兒童の個性を尊重し、教育勞作の徹底を期し勞働勤勉趣味の志操を養ひ美的觀念を發揚せしめ品性を陶冶し創作創造に努む。

- 一、常に作業の目的を明瞭にし準備を整へ具體案過程を綿密にして緊張と興味を與へ結果を尊重し反省處理の徹底を期す。

- 一、不斷の觀察を精密ならしめ眞理を研索せしめ以て知能を啓發向上せんとする研究的態度を養成す。



家庭の部 (○印實施)

其他	養魚	鑑池	空地	溫床	溫室	植木鉢	花	花	園	學園	學園	農園	果樹
業池	池	池	用	床	室	他	木	卉	園	園	園	園	園
○		○	○			○		○		○			
○		○	○			○		○		○			
○		○	○			○		○		○	○	○	
○		○	○	○		○	○	○	○	○	○		
○		○	○	○		○	○	○	○	○	○		
○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○			○	○	○	○	○		○		○	○
○			○			○	○	○		○	○		○

學校の部 (○印實施)

- 口、愛土教育施設一覽
- 一、校地並に耕地を愛護し空地を利用し栽植に勵みその實蹟を擧げ收穫、製産、加工、収益の道を講ずること。
  - 一、凡て教師の示範と相俟つて個別指導を丁寧にし、且團體的訓練社會的生活の訓育を施し、自立自營の精神と和衷協同並に奉仕的精神の啓培をなす。
  - 一、文化と兒童の心身に留意し合理的施設經營を施し整理整頓修理廢物利用等凡ての生命を尊重し利用更生の道を授くること。
  - 一、衛生保健に留意し勞作による美化並に體育の積極的向上を計り心身の鍛練に努むること。
  - 一、他教科との有機的連絡を計り教育的價值を大ならしむる様常に有効適切なる指導をなすこと。



其 他 園 藝	フ レ ー ム	植 木 鉢	花 園	一 坪	菜 園	同 園	研 究 田			
○		○						一	尋	
○		○						二	尋	
○		○	○					三	常	
○		○	○		○	○		四	常	
○	○	○	○	○	○	○	○		五	科
○	○	○	○	○	○	○	○		六	科
○	○	○	○	○	○	○	○		一	高
○	○	○	○	○	○	○	○		二	高
○	○	○	○	○	○	○	○	○		補
○		○	○	○	○	○				習
										科
										女

〔註〕

- 一、研究田は實補生學習の家庭實習の研究用。
- 二、研究圃は小學校にありては作物物理的研究、實補にては職業的研究。
- 三、菜園は尋常科にありては作物の理的研究、高等科及實補にありては職業的研究。
- 四、一坪農園は學校より同一種子の配布をうけ栽培競技研究用。
- 五、フレイムは小學校にありては簡易なる兒童作のものより進め、實補にては實際研究。
- 六、指導上の注意事項

○新學年準備事項

- 一、學園並に其他擔當地區分設定
  - 二、標札新設及塗換
  - 三、各學級學園經營計畫設計書作製
  - 四、前學年引繼物處理並に保管
  - 五、學級用植木鉢處理及購入割當作付等
  - 六、各種計畫打合自治會開催
    - (一) 教授方針具體的説明
    - (二) 經營方法相互協議
    - (三) 各種當番協議打合
    - (四) 各種研究事項打合
  - 七、各種帳簿作成
- 當番日誌 研究錄(個別的分園的)



其他兒童學級個々の諸帳簿書類

- 八、兒童作業服調製並に持參
- 九、一般實習用具の點檢修繕新調
- 一〇、學園及家庭實習研究用種苗類
- 一一、各種培養土調製及肥料等
- 一二、其他施設經營上必要なるもの

○教授訓練注意要項

- 一、教授の目的及方法並實際指導の考究
- 二、教材の選擇系統的配列指導體系の確立
- 三、自覺的作業反省的處理の徹底
- 四、一般作業訓練と作業的技能的體得
- 五、他教材との連絡及發展
- 六、職業的方面への指導

七、自發的自治的團體的奉仕的訓練

- 八、研究的態度の養成
- 九、教師及兒童との接觸生活と道德的指導

一〇、一般的美化と身體的方面の注意及衛生的方面の徹底

- 一一、廢物利用自給自足の研究及實際的指導
- 一二、用具並に公共物に對する精神的取扱並に處理
- 一三、農産加工・節約・利用・處理・販出・貯金・會計・年貢等收穫物に對する研究並に經濟的方面の實習
- 一四、作業當番研究等日記諸記錄の檢閱並に指導
- 一五、結果に對する一般的處理の習慣

一六、精神的方面の善導及身體的方面の鍛鍊

- 一、愛土實際行事要項
- 一、學校施設經營に對する直觀指導



- 二、校外特殊施設及參考物見學
- 三、揭示教育の徹底
- 六莊教育、支關時報、各校舎時報、學級報、プリント其他繪畫繪葉書、統計標本實物等
- 四、種苗の分讓
- 無料配布 實費提供 共同購入等
- 五、學級自治會 學校自治會
- 六、理科慰靈祭との連絡 害蟲驅除作業
- 七、品評會 展覽會 競技會等開催
- 八、理科文藝 繪畫 手工科等への發展並其成績物研究
- 九、慰安會 試食會 家事科等實施
- 一〇、發表會
- 八 行事方面 研究方面(全校學級個人)
- 二、家庭巡回指導

- 三、家庭に於ける兒童觀察
- 三、販賣に對する實際
- 二四、用具點檢 用具修繕
- 二五、會計方面の自治的訓練
- 二六、寄附並に社會奉仕
- ホ、自然觀察研究中心事項
- (イ)一般觀察着眼點
- 一、植物其の他の眞の理解
- 二、植物相互の關係
- 三、動物植物に及ぼす影響
- 四、氣象太陽土質等の研究並に植物成育との關係
- 五、人生との關係 郷土との關係
- (ロ)栽培要件として着眼點



- 一、栽培法と選種
  - 二、種子の形態構造と播種の深淺
  - 三、條間及株間の決定播種量 用苗等の設計
  - 四、發芽歩合 發芽狀態 着眼等
  - 五、發芽と濕度及溫度 外部との關係 施肥料等
  - 六、中耕 耕起の深淺 覆土等の關係
  - 七、病虫害の觀察及驅除豫防の研究並實習
  - 八、花蕾及開花 交配受粉の觀察並人工媒助
  - 九、根 莖 葉 花等の生態の觀察
  - 一〇、結實 成熟の狀態及期節 特徵等の研究觀察
- 二、實際經營と反省

每學年各學園に於ては前記細目並指導要項の示す所に従つて、各學園主任に於て一定の様式により全校總て精密に樹立するのである。そしてその實際の經過記録を纏めて逐次經







過を記録し、各學年中心とし一學年度終了と同時にこれを整理反省して更に後學年へ進む資料とし且學園の尊き歴史として残るのである。之を更に一括して學校園藝主任が、本校愛土教育沿革誌に記載することにしてゐる。尙兒童には各學級、學年に應じそれ／＼學園日誌を記載せしめ、兒童の觀察せし事項並に作業、研究問題等毎日當番によつて綿密に記せしめてゐる。又兒童研究帳等持参せしめて個別的にそれ／＼具體的に記述せしめこれを時々檢閲して指導して益々作業そのものを趣味的研究的になさしめてゐる。

### 三、動物飼育作業

○動物飼育作業に關する意見 兒童生活を凝視して——兒童の本質奈邊にありやを、じつくりと靜かに眺めて見る時、學習と共に遊ぶといふ世界を持つてゐる。而も此の遊びたるや他の一切を自己と同等の人格として取扱ひ其の中に自己も育ち他も育つといふ主要な而も兒童生活には原本的な分子の存在を見遁す事が出来ない。土塊を砂糖と見る土への愛惜もさる事乍ら、兎が餅を搗くと見る動物觀も、動物を育て乍ら自己を育て、行く兒童の體驗として見遁すことは出来ない實在である。即ち兒童生活の中に動物愛を實現せんとす



る根本的な力のある事を忘れるならば、児童生活を見る事尙不充分の評は當然受けねばなるまい。

1、勤勞生活を尊重して、動物愛の實現たるや時間的に不斷の苦闘と空間的に必然なる筋肉活動を豫想せねばならぬ。即ち之勤勞であるが斯く考ふる時勤勞亦児童生活の本質より派出する價值實現のメソッドである。前述の動物それ自體児童と縁近き物であり、勤勞それ自體児童生活のメソッドであるならば、小學校に勤勞教育を擧げて幾十の動物を飼育する事は當然すぎる程必然の問題である。本校は此の動物飼育に對して遊戯——作業——生産の各脈絡を通して尊き勤勞を浸徹せんとするのである。

2、他教科の連絡と相俟つて學理研究の爲に之は主として上級學年及び實補生の爲に爲さしめんとする事であつて繁殖——飼育等に關しその學理研究を深めたい目的であるが之は特に別項を設けて之が詳細を明かにする。

3、副業獎勵の意味に於いて、現在の農業の盛衰は經營如何といふ問題に歸着するたらうし、又農村小學校は一村文化の先導機關であると考へる時前者の解決を後者の充實にあ

りとして本作業を課すことによつて副業獎勵に資せんとするのである。

○動物飼育作業の實際

1、雞飼育に就て

イ、沿革表 (飼育數はその年度内に於ける手をかけた數にして雛をも含む)

飼育數	擔當學年	主餌	建坪
昭和四年 六三羽	尋三男女、尋四男女、尋五男女、尋六男女、 高等科 同右	米糠、小米、高粱 キヤベツ	四・八坪
昭和五年 八〇羽	尋四女、尋五男女、尋六男女、高 女	クローバー、同右 米糠、小米、キヤ ベツ	同右
昭和六年 二五五羽	尋五男女、尋六男女、高一女、高 二女	ミヨサ、大豆粕、 同右	四・五坪
昭和七年 二三五羽	尋五男女、尋六男女、高一女、高 二女	同右	同右
昭和八年 五五八羽	尋五男女、尋六男女、高一女	同右	六・〇坪

ロ、繁殖、育雛

主として母鶏育雛によつてゐるが、種卵は諸研究と相俟つて本校産のものを採用してゐる



る。本年は特に人工育雛に主力を注ぎ人工育雛器を買ひ受け五百羽の育雛を試みたがその成績は極めて良好であつた。その雛は殆んど村人の方へ實費分讓した。

ハ、飼 育

飼育中餌の配合——給餌——採卵——鶏糞處理等殆んど兒童の當番日課であり特殊飼育管理に屬する病蟲害豫防の如きは研究的に兒童と共に行ふ様にしてゐる。

ニ、研 究

之は特殊生の希望により題目を自選せしめ、行ふ様にし、只教師はその指導の任に當つてゐる。こゝに詳細を披瀝する事は控へるか飼料と産卵數及び産卵量の關係グラフ又は交雑種の研究等相面白いものが出來上つてゐる。

ホ、實補農業科への發展

品 種	題 目	時 間	要 項
雞の歴史	一	一	雞が野生であつた頃より人間に飼育されるに至つた迄の理由と歴史並びに之が地球上各地の歴史にも及び
品 種	三	三	日常目視せる品種より他に如何なるものがあるか及び卵用、肉用、卵肉兼用に分ち之が特性に就て授ける

雞 舍	二	二	雞舍設備の要件、並に建築、埒の實際に就て
飼 育 一 般	四	四	雞の飼育、成禽飼育、飼料飼育管理に就て等
病 理	一	一	病原、病狀、治病その他
品 種 改 良	二	二	一代雜種及び二代交雜等の學理とその實際等
經 營	二	二	五十羽飼育を中心として
孵 化	三	三	自然孵化法並に人工孵化法に就て
去 勢 肥 育	二	二	實習、飼育に就て

ヘ、本村への貢獻

本村副業獎勵の意味に於いてその實際を六莊教育や農會報によるプリントに於ける經營方法の貢獻並に卵、肉の販賣或は雛の販賣による物質的貢獻等と斯く本村農業經營の先導として熟考を廻らしつゝ、一步一步その實現を圖りつゝある。

2、豚飼育に就て



イ、沿革表

昭和	昭和	昭和	昭和	頭數	種類	擔當學年	主飼	建坪
昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	二頭	四頭	四頭	四頭	二坪
ヨークシャー	同	同	同	同	同	同	同	同
高二男	高二男	高二男	高二男	高一男、高二男	同	同	同	六坪
米、糠	同	同	同	同	同	同	同	同
米、糠、大豆粕、醬油粕其他	同	同	同	同	同	同	同	同
二坪	二坪	六坪	六坪	六坪	六坪	六坪	六坪	六坪

ロ、仔豚

最初昭和五年四月に着手した時は愛知縣の産のものを商人より手に入れ同六年四月には伊香農學校より購入し同七年より本校にて仔豚を産ませる様にしてゐる。

ハ、飼育

仔豚飼育と分娩當時の飼育困難なる時は動物主任が之を飼育する事としその他の場合の飼育は勿論飼料の配合——給餌——採糞等は殆んど兒童の手によつてなされてゐる。

ニ、實補農業科への發展

題目	時間	要項
品種	二	ヨークシャー種バークシャー種を主としてその品種の特性に就て
豚舎	一	豚舎としての諸要件並に諸設備に就て
飼育一般	二	仔豚飼育法、飼料、給餌法に就て
經營	二	残滓利用、豚肥製造、販賣等
繁殖	一	品種改良と相俟つて
去勢	一	實習並に飼育法に就て

ホ、本村への貢獻

自給肥料の製造並に仔豚の販賣に就てその實際を村人に披瀝し、その奨励を行ひつゝある事並に豚肉販賣等によりその理解と實行とに盡力しつゝあり幸にその效を收めつゝある事を喜こんでゐる。

3、兎飼育に就て



イ、沿革表 (頭数は幼児を含む)

昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
二〇	一七	一五	一三	二八
尋常四年	同	同	同	同
クロバー	クロバー、 キャベツ	同	同	同
一・五坪	同	同	同	同

ロ、繁殖

本校に於いて飼育せる親兎による繁殖を主とし、幼児は大抵箱飼ひをしてゐる。

ハ、飼育

児童當番がそれに當つてゐる。餌等は、大抵登校の際道端で採つて来る様にし特に教材園又は鑑賞池等の周囲にはクロバーを栽培し之を主餌としてゐる。

4、水禽飼育に就て

イ、沿革表

昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年
鶯、鶯鳥	同 右	同 鶯鳥	同 右
七羽	六羽	四羽	四羽
尋常六年男	尋常六年女	尋常五年男	尋常五年女
小米、米糠、フスマ	同 右	同 右	同 右

ロ、繁殖、飼育

昭和四年四月鶯鳥の種卵を八幡の昭和學園より購ひ孵化せしめ、又同時に本村内の鶯の種卵も孵化したのである。以後飼育は殆んど雞と同様にして同五年六年七年と連続的に飼育したのであるが、動物飼育統制上昭和七年の秋より廢止し今では飼つてゐないが今後は方案を決めて新しく飼ふ考である。

5、其他の飼育に就て

イ、金魚



金魚はその飼育を尋常一年と尋常二年に配當し各教室内に於いて金魚鉢一鉢づゝ飼育してゐる。淡青色の硝子を透して藻の間を金色の背を見せながら嬉々として餌をあさる様こそ如何にも教室内にすがすがしい気分をもたらせる感がある。

ロ、モルモット

兎舎の一隅に箱を作り現在は二匹飼つてゐるが之は昭和六年より飼育を繼續してゐて教科との關係上重要であり且兒童の趣味向上に大切なものである。毎年尋常五年男生が飼つてゐる。

ハ、食用鳩、小鳥

兩者共昭和四年の着手であつて當時は相當に數多く且熱心に飼養されて時々きれいな調子でカナリヤ等が教室の窓に囀つてゐたが今では一羽も飼つてゐない。併し童心と密接な關係にある小鳥は以後是非飼ふべく目下方案作製中である。

ニ、養魚

養魚については本年四月より五百尾の大和鯉を入れ飼育中で三年生がそれを擔當してゐる。

る。今では未だ幼鯉なのでビール箱の前面と周圍に細目の網を張つて鑑賞池中に水没せしめ、米糠と蛹を一日二回與へて飼育してゐる。成績は可成良好で將來本飼育に囑望を待つ次第である。

ホ、山羊飼育に就て

昭和五年四月に仔山羊二頭を購入し高等一年がその飼育に當つてゐた。主として野生の草或は落葉等にて飼ひ得られるので高等科位の男生には適當してゐる。特に愛らしい聲と眼は山羊の生命であり人懐しく側へ寄る時知らず手を出して撫でたくなる。又紅陽將に西山に没し伊吹の山に餘光を放つ秋の夕ぐれに薄紅のコスモスを背景に白い山羊が草食ふ様は如何にも平和であり、大陸的である。惜しくも昭和七年の十二月飼育を廢止したが尙將來も飼ひたいと思つてゐる。最後に敢てそういふ人々に抗争を試みやうとする者ではないが無理解な人の口から聞々「小學校に豚を飼ふ？」と訝るのを聞く事に就いて體驗と實感を有する者として一言しておきたい。

動物飼育の兒童生活の本質から派出する必然的行爲である事は前述の通りであり、且之



が教育的なりや否やに就いて訝るならば教育原理の指示する通り教育とは兒童の生活を理想的に助長せんとする計畫的助成作用であるの一言で其の疑問は解決出来るであらう。理想はそうでも實際は……と言ふならば僅少で而も不注意な體驗と實感ではあるが、以下述べんとする數語は雄辯にその不審を解消するであらう。

それは氷雨そぼ降る晩秋の放課後である。兎當番の二三人は兎部屋の中で一しきり何か話合つてゐた。大方餌を取りに行く相談であらう。……と少時する中當番全部が冷い秋雨を浴び乍ら跣で何處かに走り出た。少時すると皆が手にくしゃべツの葉を一杯握り乍ら歸つて來た。多分農場から穫つて來たのであらう。(愛土作業の項に詳論して置いたが、冬期の農園作付は動物飼料として全部學校の飼育動物に提供する事になつてゐる)

兎は餌のあたる嬉しきにか部屋の外迄出て前脚を上げて當番の兒童に巻き付く様にして伸び上つてゐる。兒童は一葉二葉と果は兩手に握つてゐた全部を兎に與へて無言の中にお互顔を見合はして莞爾として微笑してゐた。うまさうに食べる！と。冷たさも、寒さも苦しさも打忘れて只管兎の餌を食べる姿に恍惚として打興じてゐた。廊下の隅つこに熟と

此の有様を眺めてゐた筆者は子供の純なる本性に觸れた様な氣持で合掌の感謝さへ惜まなかつたのである。

此の一編のエピソードも内容を充分に把握せらるゝならば、説明は敢て不用であらうが、翻つて世相の實相に想を到す時世は擧げて口に善導を説き乍ら網膜に映る映像、將又鼓膜に響く振動は口にするもいまはしい悪化の世相である時成人の三省すべき點の多々あるを觀取するのである。概念として動物を愛せよといふ實踐徳目の説明が不備であるにしても、實踐の姿は成人も及ばざる勤勞の、動物愛の、極致ではないか。教室で幾度か共同一致を説き乍らも、尙實行の不足なる兒童も動物飼育に當つては修身科の要求する以上の實踐姿態ではないか。眞に兒童生活の眞姿を眞面目に直視し教育の本義に浸徹せんと一片の教育良心の所持者は二十坪教育以上に動物飼育作業の教育の當然の姿として認むるに吝かならざるの理由を肯定するであらう。

#### 高等小學の農業實習

##### 一、實習地の區劃並面積



土地の事情並經濟上の事情は實習地の區劃及面積に變化を與へるものであるが、幸本校に於ては最も理想に近き實習地を一ヶ所に得又面積に於ては勿論生徒數、年齡其他を標準として面積を限定すべきは勿論であるが、然し從來は一般に小面積で兒童に實際的の効果を與へ得ない傾向にあつたが、本校に於ては特に兒童の實際的能力並勤勉なる精神を涵養すべく相當廣き面積を與へて實習を課してゐるのである。

今本校生徒一人に對する擔當面積を示せば畑八坪、田三坪の割合で本校の區劃及面積の實際を記せば次の通りである。

蔬菜園(兒童分擔區)	六畝
果樹園	一反二畝
水田	一反六畝(其内一反歩は實補專屬)
苗圃	一畝七歩
研究田	一畝
花園	二畝

宅地利用女子合同研究農場 六畝四歩

二、實習作物

A、實習作物選擇標準

- 1、性强剛にして栽培容易なるもの。
- 2、生育早きもの。
- 3、實驗觀察の多く出來得る作物。
- 4、郷土に於て現在重視せらるゝ作物。
- 5、將來望みある作物。
- 6、播種より收穫に至るまでの手入法模式的であり代表的であるもの。
- 7、實習地の地勢及土質に適當なる作物。

B、實習作物の實際

- 1、普通作物 (イ)禾穀類—稻、麥、黍、玉蜀黍。(ロ)荳菽類—大豆
- 2、蔬菜類 (イ)根菜類—蒾藷、蕪菁、胡蘿蔔等。(ロ)果菜類—瓜類、茄、トマト。



(ハ)葉菜類—白菜、體菜、京菜、壬生菜、甘藍、葱頭、菠薐等。

3、果樹類 (イ)仁果類—梨(廿世紀、八雲、晚三吉、長十郎、慈梨、菊水、パートル

ツト)。柿(富有、横野)。

(ロ)核果類—桃(橘早生、離核、岡山三六九號)、梅(自加賀)。李(ソルダム)

(ハ)漿果類—葡萄(デラウエア)、カメルスアリー)

無花果

4、草花類—(イ)一年草花(日々草、鳳仙花、貝細工、ペチュニヤ、矢車草、萬壽菊、鶏

頭、フロックスドラモンデー、コスモス、翠菊、百日草、

千日紅、サルビヤ、ゴールドンボール、パンジー)

(ロ)二年草花(天人菊、金盞花)

(ハ)多年草花(ダイアンサス、雛菊、金魚草、ジキタリス、菊、ストゲシ

ヤ、結梗、リヤトリス、ヒソステジヤ、日扇)

(ニ)球根草花(水仙、チュリップ、ヒヤシンズ、アネモネ、イキシヤ、モ

### 三、實習地の經營

#### (一)、蔬菜園經營の實際

##### (イ)蔬菜園現況

本校蔬菜園は昭和五年春借入せし所であるが以前は水田で北側は堀に接近し然も土地低  
き爲本校實習地の内最も土地が過濕になり易き缺點があるので排水に意を注ぐと共に堆肥  
の施肥等土地の改良に努め栽培作物に就き各栽培法を研究して居る結果年々相當良品を多  
く生産するに至つたのである。

##### (ロ)兒童分擔園の經營

A、目的 (1)、栽培法の實地練習をなさしむ。

(2)、競争せしめると共に農業の趣味を長ぜしむ。

(3)、自己の勤勞の如何により報酬に多少あることを會得せしむ。

ントプレチャ、トリトニヤ、グラジオラス、カンナ、ダリ  
ヤ、フリージヤ、百合)



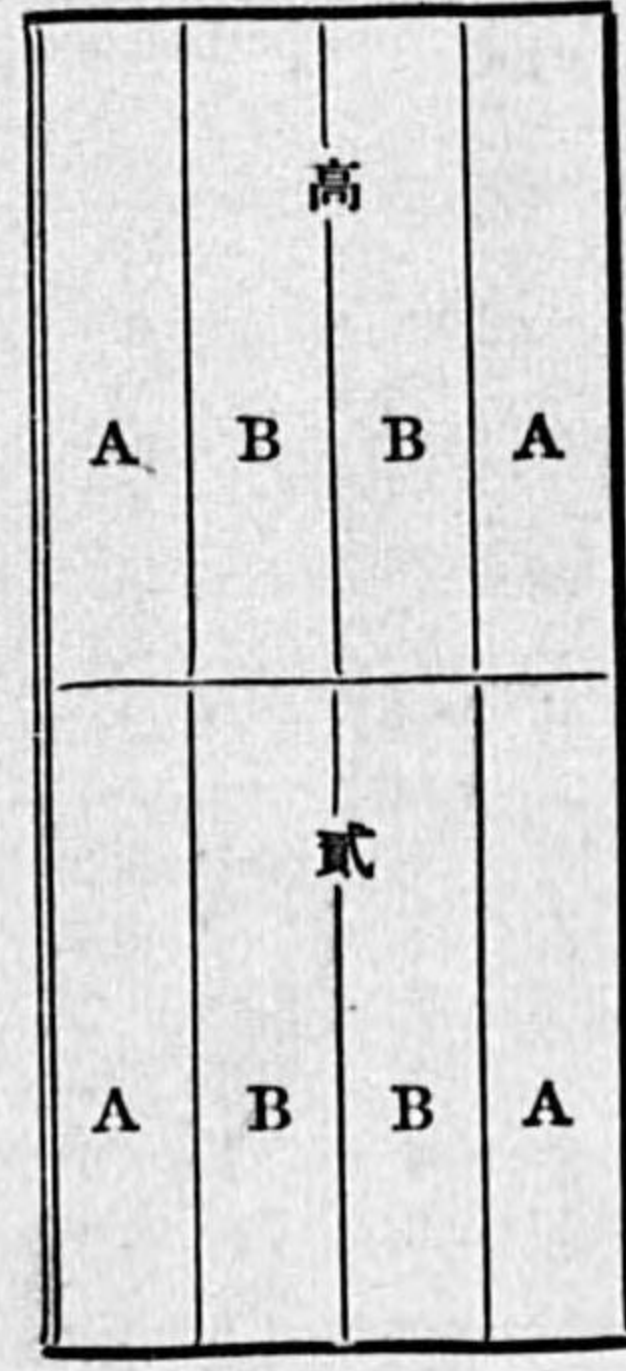
- (4)、自守獨立の精神を養成す。
- (5)、責任觀念を養成せんとす。
- (6)、模範的に作付經營せしめ作付上に關する知識を得せしむ。

B、兒童區分法

高一男 七組 (二組四名宛)  
高二男 十一組 (二組四名宛)

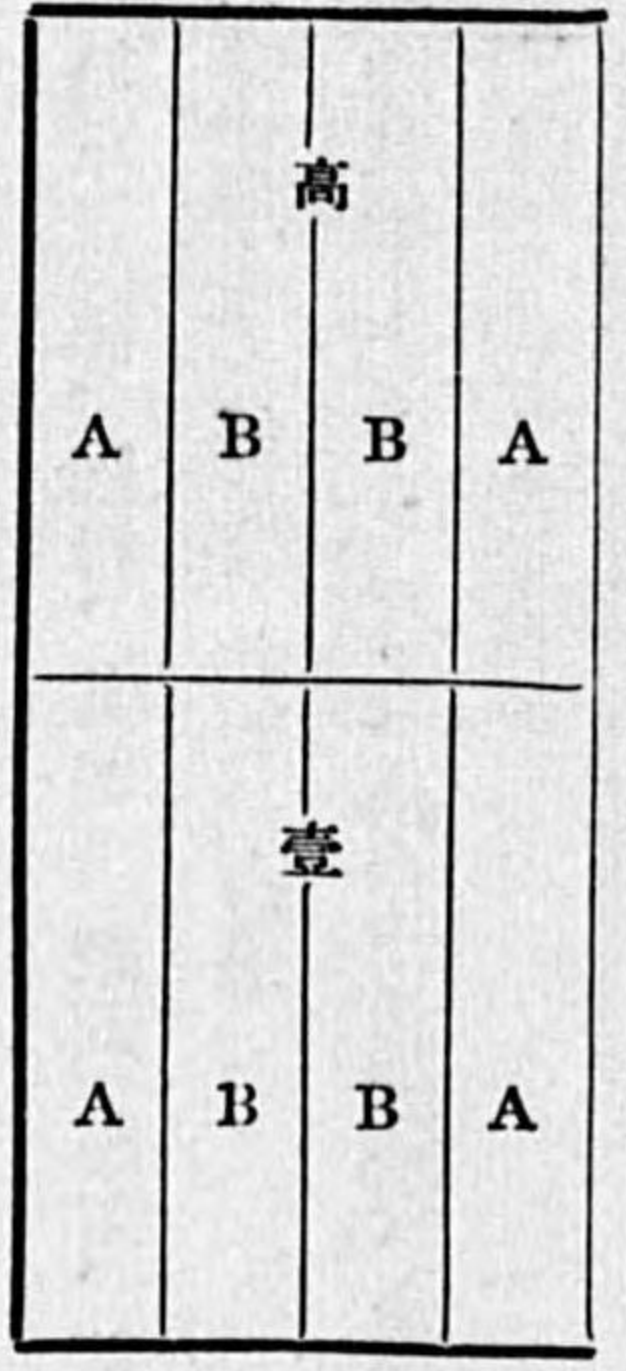
高一、二女共同實習

C、兒童分擔園作付設計の實際



高一、二男分擔園をA區とB區に分つ。

○高二男



○高一男

	夏作	秋作	冬作					
	區A	區A	區A	區B	區A	區A	區A	區A
	區B	區B	區B	區A	區B	區B	區B	區B
昭和七年	越瓜、胡瓜	大根	甘藍	葱頭				
	茄子、トマト	燕菁、白菜、葱						
昭和八年	茄子、トマト	大根	葱頭	甘藍				
	越瓜、胡瓜	燕菁、白菜、葱						
昭和九年	越瓜、胡瓜	大根	葱頭	甘藍				
	越瓜	燕菁、白菜、葱						
昭和十年	越瓜	大根	葱頭	甘藍				
	越瓜、胡瓜	燕菁、白菜、葱						



		昭和七年		昭和八年		昭和九年		昭和十年	
		夏作	秋作	夏作	秋作	夏作	秋作	夏作	秋作
		B 區	A 區	B 區	A 區	B 區	A 區	B 區	A 區
		越瓜	燕菁、大根	越瓜	白菜、體菜	茄子、トマト	越瓜	越瓜	越瓜
			白菜、體菜		燕菁、大根		白菜、體菜		白菜、體菜
					白菜、體菜		燕菁、大根		燕菁、大根
			甘藍		甘藍		甘藍		甘藍
			甘藍		甘藍		甘藍		甘藍

(ハ) 研究園(試験區)

本村に於て重要視せらるる、蔬菜及將來栽培に適する蔬菜に就き特に各種試験研究をしてゐる。

例、越瓜(品種、肥料、其他)。葱頭(植方、苗の養成、採種)

不時栽培——胡瓜、甘藍、白菜

特殊栽培——ニンニク、洋芹、花椰菜、薑等

(ニ) 苗圃

(1)、草花苗圃。(2)、蔬菜苗圃。

(ホ) 蔬菜栽培(作付蔬菜の主なるもの) 實習指導曆に依る

(二)、果樹園經營の實際

(イ) 果樹園の現況

本校の果樹園は昭和七年三月水田を借入れ新設したるもので地味可良なる爲稍、徒長の感があるけれども剪定並病蟲害の驅除に努むれば相當の結實を見るものと信じ、又一面學校の果樹と見て考ふる時は斯かる管理をなす爲練習を充分なさしむるを以て教育的と云ふべきであらう。尙新設以前は一毛作の水田なりし爲排水溝を設けて今日の狀態となりたるも降雨多き年は完全に排水し得ざるの憾がある。

(ロ) 果樹栽培の目的と栽培の實際

宅地の利用として果樹栽培の奨励並副業的栽培特に從來等閑視せられたる品種、整枝は勿論剪定、施肥、病蟲害豫防驅除其他管理に對する模範を示し、一方苗木を仕立て之れを配布し、栽培の奨励及栽培技術の向上を計る爲に果樹園を新設したので、栽培する果樹の



如きも本村に適し有望なる果樹を撰定し其各種試験其他栽培管理に就きても模範を示し兒童生徒に實習せしめ、果樹栽培の普及徹底を計り品種見本、整枝見本、育苗、間作の研究を續けてゐるのである。

(ハ)本校栽培の果樹

柿……………富有、横野。

梨……………廿世紀、八雲、晚三吉、長十郎、慈梨、菊水、パートルレット。

葡萄……………デラウエア、カメルスアーリー。

李……………ソルダム。

梅……………白加賀。

桃……………橘早生、離核、岡山三六九號。

無花果

(ニ)整枝果樹の模範栽培

棚作り……………梨、葡萄。盃状仕立……………桃。自然形仕立……………柿。

垣作り……………梨、葡萄、バルメット、カンデラール、ダイヤモンド。

整枝果樹は地價高き地に於て小面積より成可く多額且優良なる生産を得んとする場合に勞力及費用の多きを厭はず充分なる技術を應用して經營すべき方法を示したるもので整枝果樹は成るべく樹を小さく仕立て病蟲害の驅除豫防其他の手入に便利ならしめ、且又樹形の整正なるが爲に營利的なるのみならず庭園に於て娛樂的且裝飾的にも行ふを得、整枝果樹は又剪定の理論を攻究し結實の状態を調査するに好都合にして又多くの品種を小面積に植込みて比較對照するに便利である。

(ホ)品種見本園——普遍種

梨、柿、桃、梅、李、無花果につき重要品種二三種蒐集し品種の優劣を比較對照する所である。

(ヘ)育苗と配付

現在農家の宅地に栽植せらるゝ果樹には結實せないものや結實しても優良品を得ない果樹が一般に多い。勿論従來何等栽培法に注意せず放任せられた事が大なる原因でもあらう



が、根本に於て其の果樹が老木の爲樹勢衰へ當然結實せざる果實が多い。之等の果樹に周到なる栽培管理をなすも到底好結果を得られぬものであるから結實を多くし優良品を多くするには先づ良苗と植替へ栽培管理に一層留意すべきことである。其の苗を年々購入すれば相當の費用を必要とする爲自家で苗木を養成すべきであることを一般に知らしめる爲先づ學校に於て苗木を養成し一般に普及する目的である。之が爲兒童より柿種を蒐集して播種し二年乃至三年目に接穂を購入し兒童生徒の接木實習の材料に提供し優良苗木を多く育て其他葡萄、無花果等の挿木を盛に行ひ優良苗木の生産に努め、村内へ實費分讓をなし果樹栽培の普及並に改良を計つてゐるのである。

#### (ト) 間作の研究

新設して二三年間は何等果樹より収入なきため間作として収益の多き作物を栽培研究し収入の途を講ずる必要があるので、本校に於ては今迄次の様な間作研究して來たのである。

○西瓜栽培(本村模範栽培指定地) ○柿苗養成 ○ニンニク栽培 ○小麦栽培(本村實地指導地) ○ヘチマ栽培(ヘチマコロシ調製) ○葉牡丹 ○甘藷 ○大根 ○蕪 ○水菜 ○茄

(チ) 果樹栽培實習指導曆に依る

(リ) 本校果樹園栽植圖に依る

### 三、水田經營の實際

(イ) 水田經營の目的

- (1)、試験並實驗をなし稻の栽培に對する知識を涵養す
- (2)、栽培の練習をなさしめ技術の向上を圖る
- (3)、増收と共に經濟的栽培の方法を研究せしむ。
- (4)、土地の利用を研究實行せしめ生産の増加を圖る。
- (5)、優良品種の採種をなし之が普及に努む。
- (6)、本村稻作改良に留意す。

(ロ) 區劃と經營

本校水田は總反別一反六畝にして一反歩は試験田として各種の試験研究並實驗をなし、本村の稻作改良を圖るべく設計し實施し其の經營に直接當るものは實補男生約五十名餘に



して字別に區劃し栽培管理をなさしめ、六畝歩は普通田（練習田）にして栽培技術の練習をなさしめ之が經營は主として小學校高一、二生徒が擔當栽培してゐるのである。

(ハ)本村の稻作改良に對する各種試験研究と經營の實際

栽培品種の選擇

本村獎勵稻種として六種（滋賀神力二十四號、滋賀神力二十五號、關取白銀中生旭渡船二十六號、白糯十八號）を販賣並土地適性上より撰定し極力農會並産業組合等と連絡を保持し之が栽培普及に努め品種の統制を圖り其の内最も優良なる一品種につき各種の試験研究栽培を生徒に實習せしめ其の成績結果を一般に發表して普及獎勵を圖ることとしてゐる。

(四)、草花園經營の實際

校舎内外の空地を利用し、美的情操陶冶の上より農業趣味の助長の上より土地經營管理の知識技能を得しめ、收穫物は主として高女生に隨時切花等と同時に商販賣せしめ處女會員は毎週一回約二時間位の豫定で一部落づゝ（數名）召集して實習せしめてゐる。

四、實習地以外の實習施設

家庭農園經營の實際

1、家庭農園實施の目的

(A)學理の實現と技能の練習に資す。(B)自守獨立研究的精神を養成せしむ。(C)本村蔬菜栽培改良の一端に資す。(D)實業補習學校に於ける家庭實習研究の前練習に資す。(E)家庭との連絡を密接ならしむ。

2、家庭農園に於て栽培せしむべき作物

家庭農園にて栽培する作物は蔬菜類にして本村蔬菜改良の一端として價值ある蔬菜を選擇し品種に於ても前述せる作物選擇の標準により定めてゐる。

3、家庭農園に對する指導方法

(1)、家庭農園經營の準備

(A)農園の撰定法の一般を授ける。(B)整地、播種、施肥其他の栽培管理に關する一般を授ける。(C)栽培日誌の記入法に付充分了解せしめ置くこと。(D)種子（豫め個人毎に包みたるもの）配付。



(2)、家庭農園に於ける各兒童の任意研究事項

(A) 實習地の位置撰定、坪數の決定。(B) 肥料の種類及施肥法。(C) 整地、除草、中耕、病蟲害豫防驅除其他の管理法。

(3)、教師の指示する事項

(A) 種子の品種並性状。(B) 播種期。(C) 收穫期。

(4)、巡視指導

出來得る限り回数多く巡視し學級主任と擔任教員互に連絡し家庭訪問並實補家庭實習地指導の際各季節に適當なる注意をなし優點を賞し以て兒童の農業的趣味を養ふと共に研究心を旺盛ならしむる様努めてゐる。尙巡視の際指導すべき事項は

(A) 肥料の種類分量施肥法。(B) 中耕除草間引其他の管理。(C) 害蟲驅除の方法及病蟲の豫防法。(D) 品種の特徴。等である。

五、農産加工作業

1、本校農製科設置の動機と其沿革

農製科設置の必要が職員間に論議され出したのは昭和四年の秋のことであるが、それから數ヶ月は専ら準備研究の爲に費し實際に本校の施設として設置されたのは昭和五年の四月からである。當時農村の經濟窮迫は益々熾烈になると共に、長濱町の近村は何れもこの小なる消費地を目ざして盛に農産物を栽培し之を販賣して利益を上げんと出荷組合の如きは雨後の筍の如く各村に設けられたのであつた。

併し實際農家は穫るには敏であるか利用には暗い。單に生産物を其儘販賣する様では、その出盛期に於て他に適當なる方法のない限り此の小なる消費地へは必らずや生産過剰となり價格の下落を來し農家は生産品を抱へて長歎息するや必然である。されば我々指導の任にあるものは從來の如く單なる農作物の栽培のみに終始して居てはならぬ。進んで之を貯藏し、之を加工して賣價の向上、收益の増加をはかり、延いては餘剩勞力を利用し趣味を高め廢物を利用化せしめ、かねて副業の發見に資するは極めて緊要であらうとの考の下に研究的に設置したのが即ち我が農製科設置の動機である。故に本校に於ける農製科は委



しくは農産製造科にして通俗的の言葉を用ふれば農産加工科の意味である。

以來今日まで幼稚ながらも實補生青訓生處女會員小學校高等科兒童その他を指導の對象として研究をつゞけて來た。勿論色々事情の爲に初めに考へ意氣込んで居た程の成績は容易に擧げられないけれども、後にも述べる様に極めて遅々ではあるが最近各方面に其の効果の見る可きものが現はれて來たことは我々指導者として實に愉快とする所である。本校の農製科は特別會計で村役場とは何等會計上の交渉はない。設置當初に於て備品として戸棚二本と簡易打栓機一臺を購入して貰つたに過ぎぬ。而して別に他より五十圓を借入れて資本金とし王冠及貯藏壕を買入れ尙加工品の材料費に充當した。かくて今日まで種々なるものを加工して來たが、いつも製品を販賣して賣上金を運轉し初めに借入たる資本金も返却して尙加工用具も相當に買入れてゐる。設備の不完全と指導者の未熟とは失敗も多かつたが又思はぬ利益を得たこともあつた。勿論經濟的利益のみを目的とするものではなく、たとへ利益はなくとも教育上の効果は有るわけであるが、さりとて販賣する以上全然利益を考へぬわけにも行かない。いはんや農業經營としての農産加工は此の利益が主目的たる

に於てをやである。

本校に於て加工するものは次頁の加工層に於ても見る様に極めて平凡なる物ばかりである。研究としては各種各様のものを加工するが之等は所謂研究で、實際的に相當多量に加工するものには目新しいものは無い。それは本校農場、或は我が六莊村内の生産物中販賣上比較的不利なるものを加工することに努めてゐるからである。

本春高等科女生及び實補女生の手になるトマトジャムを日本聯合青年會の副業品展覽會に出品して入賞し賞状を授與された。

加工品の販賣については別に記述されるから重複をさけて此所には述べないが、このトマトジャムの如きは當地方では販賣し切れないので、毎年前記の副業品展覽會に即賣品として出品し非常なる好評のもとに年々賣り切れの状態である。

## 2、本校農産加工層と實施の概況

次に本校に於ける農産加工層をあげて、これが實施の概況を説明して見よう。

### 農産加工層



九 月	八 月
絲瓜水加工 梅干瓶詰 トマトピツクル 蕪瓶詰 茄子芥子漬 トマト加工 干瓢製造	西瓜の加工 醬油麴及仕入 茄子鹽漬 干瓢製造 奈良漬 生薑漬 トマト加工(主としてトマト汁)           蕪瓶詰
高一二 高女 高女、實女 高女、實女	高一二、實女 高一二 高一二 高女、實女 高女 高一二、實女、處女會 高一二、實女、處女會
課外指導 當番作業 當番作業、尋五六に理科の時間に教授することあり	當番作業 當番作業 當番作業 當番作業 當番作業 當番作業 當番作業 當番作業

七 月	六 月	五 月	四 月	月 別
梅干製造 蕪瓶詰 桃の本加工 蕪の荒漬 苺の加工	蕪の荒漬 梅の荒漬 苺の加工	苺の加工詰 苺の瓶詰 青ふんどう瓶詰 蕪の瓶詰 醬油麴及仕入	櫻花鹽漬 醬油麴及仕入 苺の瓶詰	種 日
高女、實女 高一二、實女、處女會 高女、實女 高一二、實女	高女、實女 高一二	高一二、實女 高女、實女 高女、實女	高一 高二男、實補、青訓 男、其他 高女	加工 年 級
課外指導 當番作業 課外指導	課外指導 一般理論(農業)、當番作業	課外指導 課外指導 一般ジャム、ゼリー理論(家事・農業)、當番作業	課外指導 一般瓶詰理論(農業)、當番作業 作業公休日利用實施、理論(理科・農業)	備 考



一月	十二月	十一月	十月
大根切干 澤庵漬 豚肉加工 高女、實女 高二	大根切干 澤庵漬 豚肉加工 高女、實女 高二	柿の加工 絲瓜水加工 絲瓜加工 高女	絲瓜加工 絲瓜水加工 醬油麴及仕入 柿の加工 高女
高女、實女、處女會	高女、實女、處女會	高女、實女、處女會	高女、實女、處女會
當番作業	理論(農業)、當番作業 當番作業	當番作業	當番作業

二月	三月
トマトジャム及ソー 醬油麴及仕入 味噌麴及仕入 高女、實女、處女會	福神漬 高女、實女、處女會
理論及作業(理科・農業) 當番作業	當番作業

- 1、備考欄中括弧中に教科目を記したるは教授に當り、これ等の教科中より時間をとるやう細目が編制されてある事を示す。
- 2、課外指導とあるは未だ少量製造なるが爲に當番制度にして作業する價值なく研究的に一齊に指導するもの。
- 3、當番作業とあるは當番制度を以て作業し相當多量に製造するもの。

この加工暦は大體を示すものであつて、必ずしも常に此の通り實施される譯のものではない。何となれば農産加工は材料がなければ不可能であるからである。例へば本年度我が校に於ては西瓜の栽培が中止された。従つて西瓜ジャムの製造も中止した如きそれである。しかし此の暦以外に何もなさぬのでもない研究的の臨時的加工としては尙この他に多々あ



るのである。

本校農製科は其の指導の對象は加工曆に於ても見る様に、決して小學校兒童のみではない。小學校生の農製科であり實補生の農製科である。又青訓生及處女會員のそれであり且つ一般村民のそれでもある。本村々長は常に次の如く言つて居られる「六莊小學校は六莊村唯一の研究所である故に我村にとつてはそれが小學校であり中等學校であり高等學校専門學校であり且つ又大學である」と。我農製科も又此の意味に於て經營されてゐるのである。故に農産加工室には小學校兒童が作業してゐる事もあり實補青訓生が活動してゐる事もあり、又白い割烹服の處女會員がセツ／＼と加工に従事してゐる事もある。雨天や公休日にはよく紺の野良着に股引の中老や、たすきがけの農家の主婦がやつて来る。小學校兒童の作業として困難なるものは實補生や處女會員が助けるし又反對に小學生が彼等の手助けをする場合もある。かくて我農製科は老幼男女一致共同の加工研究機關となつてゐるのである。

其他に販賣作業購賣作業を課し、高等科農場及び動物飼育の収益は全部これを村に納め

尋常科學園の収益は各學級の總意に依つて擔當園小作料や種子代肥料代を支拂し殘金は學級の雜誌、ボール、學級用々紙、寫真代、慰勞會等自由に使用することが許される。

## 第二節 都市教育としての土の勞作教育の活例

### A、東京府立女子師範附屬小學校田園教場の實際

同校では昭和十年十月田園教場教育に就ての公開授業を行ひ、同教場の從來の研究發表を行つた。其の際筆者も乞はれて視察並に一場の講演を行つた本稿は其の節同校發表に係る同教育實際の摘録である。

#### 一、田園教場設立の趣旨と農園經營の使命

我が校に於て田園教場に於ける教育を施すに至つた趣旨は兒童保健の必要と、勤勞によりて兒童に堅實なる思想の素地を育成せしめる必要と、更に教室一偏の形式的概念的教授より脱出せしめて眞に生きたる知識を具有せしめんとして企劃せられたるものに外なら



ぬ。由來林間田園海濱等に於けるかゝる施設は兒童養護の方面に重點は置いたものゝ、其教育實施の期間も極めて短期であり、且つこれが教育的効果も一時的であつたのに鑑み、我が田園教場に於ては長期に亘つて兒童養護の擴充を企圖し施すに勤勞作業と實物による指導とを以つてするところに其の目的をおいたのである。即ち教場を東京府風致區域の隣に赴して、三寶寺池、石神井川、氷川神社、三寶寺、さては又附近の森林、丘陵、水田、畠地等すべて自然、人爲の二者の良環境を兼ねしめ、農園、花園、樹園の三者を營んで、本教場設立の趣旨に合致せしめんとした理由である。

教場をめぐる四圍の環境利用の教育と、農園、花園、樹園の經營とを一丸としたところに、我が田園教場の教育の姿を見ることが出来る譯であるが、こゝには専ら農園經營に關する事項を記し、我が田園教場に於ける教育の一部を陳述しようとするのである。

#### 農園經營の使命

田園教場に於ける農園の經營使命は、之を一言にして言へば、農作物を栽培することを中心として行はれる勤勞の精神と、これによつて得られる健康並びに實際的知識、更に農

藝趣味の向上を明らかにするにあるのである。

そもく都會兒は、日頃雜鬧の巷にあつて、充分なる光線と新鮮なる空氣とに浴する機會少く、常にその身體の發育を阻害されてゐる。然るに惠まれたる大自然の中に沐浴して土地に親しみつゝ勤勞をなす時、これが身體の發達、衛生上極めて有効であることは今更言ふまでもなく、更に勤勞精神の萌芽も亦こゝに胚胎し伸長するのである。而して其勤勞は作物の栽培にこれが處理の仕事を実地に擔當するが作物生育の過程、栽培、收穫の方法乃至收穫物の處理方等に至るまで充分にこれを認識せしめることが出来る。同時に其の間に於ける様々の勞苦をも體驗せしめ得られるが故に、單に農作物に限らず一般生産物に對する感謝と生産者に對する敬虔の念をも起さしめる事が出来る。

麥の穂波の美しさを、井手の山吹よりもなほ黄なりと稱へたる一茶の興趣豊かな見かたには及ばずとも、すべて自然物の見方の範圍を擴めて、植物學的、理科學的、經濟的等の見方の外にこれを趣味的にも眺め得られる地位を與へられるが故に、兒童の農藝趣味の心眼はいよゝ／＼啓けて、情操陶冶に資する機會も少くない。



以上略記したるが如く、我が農園の教育的使命は誠に大なるものであるが、この使命を果すと如何は、かつて其の指導者の努力と、それによつてなされる經營の如何によるのである。左に經營の實際に就て述べる事とする。

## 二、農園經營の實際

### 一、農園地區の廣さ、區劃、管理分擔

#### (イ)地區の廣さ及區劃

地區の廣さは總べて約六百坪、これを地形、其他の關係上、二十一個に區劃してゐる。各區の廣さは、横一間半前後、縦を六間乃至八間とし、東西に長い長方形としておく。此の廣さは大體代表の作物を生育せしめて、除草、灌水、其他の手入に便であり、なほ分擔して作物管理に當るに適當する廣さである。一地區を大に規定すれば耕作面の廣さを利する便はあるが、管理に不便となり、これを小區劃し過ぎれば管理には便なるも耕作面の縮少を來たすこととなる。わが農園區劃の如くに、大體畦幅二尺として三條乃至四條の作物を生育せしめ得らるゝ幅を有つ長方形が略々すべての點に

於て有利であり、且つ好都合である。

わが農園には、以上の地區の外に約二坪の地區が二個、一坪のものが約二十七個、あるのであるが、これは主に、職員農園、特種作物の試作地等に充てられてゐる。

#### (ロ)管理分擔

以上の如く區劃した農園は、學年、共同、職員の三者に分擔してこれを管理する。即ち、學年農園は、當該學年の管理に委ね、共同農園は學校全員の共同管理とし、職員農園は職員各自の管理に屬する。

而して學年農園に於ける作物の栽培は、豫め定められたる各學年作物栽培表によつて播種或は植付をなし、これが生育過程中の管理、收穫及び收穫後に於ける一切の處理を、すべてその學年が擔當することゝしてゐる。

共同農園の作物栽培は、農園係の職員を中心として、播種、植付物の種類、地區等を決定し、これが管理と收穫物の處理とは學校全員の當るところとする。

職員農園は職員各自の管理に屬し、専ら農作物の試作研究と、栽培の模範を兒童に



示す事とを以てその目的としてゐるのである。

## 二、農園關係

農園の經營をして遊滞なからしめるために、職員中より農園係を選び、農園係は更に

(イ)農園主任

(ロ)農具係

(ハ)種苗係

(ニ)肥料係

(ホ)整理係

の五部に分れる。

而して各係の事務分掌は大方次の通りである。

(イ)農園主任

農園主任は農園に關する一切の事務を統轄し、各學年の栽培作物に關して其の相談に應ずる。

(ロ)農具係

農具係は農具の購入、修繕等の事務に當り、常に農具の手入、又はその整理を指導監督する。

(ハ)種苗係

種苗係は種苗を貯藏し保存又はこれを購入して各學年擔任に分配する。

(ニ)肥料係

肥料係は肥料、藥品の購入、堆肥、人糞尿の蓄積及堆肥舎の整理に當る。

(ホ)整理係

整理係は農園地區收穫物の保存整理を擔當する。

## 三、栽培作物

(イ)栽培作物の撰定及種類

作物は、教材(主として理科、地理、讀方等)に關係があり、しかも農作物として重要且つ普通なもの、中より、石神井附近の地味氣候に適するものを多く撰定して之











ここに示したものは、前述の撰定方針によりて選擇決定されたものであつて、其の種類は大約五十種の多きにのぼつてゐる。而かもこの五十種は毎年必ず栽培するを原則とする。さり乍ら其の年の氣候、風雨等の關係によつては其の生育状態のすべてを觀察せしめ得られぬ事も止むを得まい。

(ハ)栽培作物の各學年配當

作物の各學年への配當は、栽培し易いものを低學年に、栽培法の困難なものを高學年に、その普通なものを中學年に配當した。而して作物の種類も高學年に進むにつれて増加させ、出來得る限り當該學年の諸教科に聯絡あるものを配當する様に考慮した事は言ふまでもあるまい。







國語讀本の内容中、植物特に農作物の擧げられてゐることは相當の數にのぼつてゐる。然るに教室一偏の形式的指導は、辛じて其の挿繪に觸れしめるだけに止る場合が多く、兒童は生きた夫等の作物に觸れる事が少い。この弊を補ふがために學校園の一部を教材園としてゐる施設は往々見受けるところであるが、餘りに其面積が狭少であつて、充分にその作物の觀察、觀賞も出來ず勿論これを栽培するための勤勞もなされない。斯かる點に我が農園栽培の作物が重要な役割を擔當してゐることは今更言ふまでもない事實に屬するのである。

ひとり作物が國語教材の内容に深い關係を持つだけに止まらず、地理科の産業(農)や、理科の教材、さては又唱歌、圖畫、綴方等の題材或は内容に交渉をもつて居ることとは、改めて考察の必要さへあるまい。即ち作物と各教材との間に密接不離の關係が幾多の部分に於て存する事は言ふまでもない事と思惟する。

今こゝに國語讀本中であられた農作物名と、農園關係による事項だけを擧げたの

みでも大方左の通りになるのである。

小學國語讀本	課	農作物名、農園關係事項
卷 一	六	菜の花
卷 一	二〇	麥島
卷 二	四	稻刈、あぜ道
卷 三	一五	むぎわら
卷 四	三	茶
卷 五	七	たんぼ
同	一〇	麥
同	一一	桑
同	一二	田植、すげ笠、あみ笠
同	一三	豆、田や島、粟
同	一五	島、田







同	一七	生麥
同	一九	温室
同	二四	耕作
卷	四	菜の花
同	九	植付、補植、下刈
同	一四	大農式、鋤、開墾、切株
同	一八	農産物
同	二一	二十十日、立春、八十八夜、土用、彼岸、入梅
同	二二	雑草、草とり
同	二三	甘蔗、わたの木
同	二六	農場
同	二七	シャベル
卷	一二	昆虫、甲蟲

高等小學國語讀本(女子用)	九	麥の刈込、早苗
同	二三	かぶと蟲
卷	二	播種、施肥、除草
同	一六	菜の花
同	二九	除蟲菊、山東菜、白菜
卷	三	雀
同	一六	れんげ草
卷	四	米、豆、粟、黍、大豆、蕎麥、小豆、ふんどし、 そらまめ、いんげん、蒟蒻、胡麻、芥子
同	二七	蕪、大根、はうれん草、芋、豆、瓜、茄子、葱、接木

四、種苗、栽培、收穫及收穫後の處理  
(イ)種 苗



種苗は栽培作物の一部分を保存し置いてこれに充てる事を原則としてゐるのであるが、第一期（過去三年間）は主に、種苗會社（瀧野川、帝國種苗株式會社）又は附近の農家等より之を購入した場合が多い。乍然第二期以後に於ては右の原則に則つて専ら自給自足の方針によつて行く豫定である。

(ロ) 栽培

栽培は、其の播種以前の整地、基肥敷込から播種、植付、管理の一切を、各學級の擔任を中心として全兒童が之に當り、その生育の過程を充分に觀察研究し或は之を自由に見賞するに委せて置く。學年によりては、その觀察の結果を豫め準備したる觀察帳に記入させて、作物の形態、生態等の研究に便せしめてゐるのである。

(ハ) 收穫及收穫後の處理

收穫は、各學年栽培の分は各學年に於て、共同の分は學校全員に於て其の作業に當ることを本體としてゐる。而してその收穫物は、一部分を翌年又は次期の種苗として之を保存し、一部分は標本として残し、更に、其の大部分は、學年兒童に分配する。

又は取りまとめて處理し調理し、之を田園教場作業日の晝飯の食膳にのせる。本年度栽培の陸稻（糯）は之を共同して、收穫處理して歲末の餅搗材料とする豫定になつてゐる。

五、農具、農具舎及堆肥、堆肥舎

(イ) 農具

農具は耕作に必要な最少限度の種類と數量とを準備した。如何に耕作的能力を有する農具であつても、それが使用に危険を伴ひ、或は餘りに高價なものであるときは、一切之を除外したのである。

今我が田園教場（特に農園）に於て使用せられてゐる農具を挙げれば、

農具名	數量	單價	摘要（新購入の場合其他の注意）
作 鋏	二〇	三、〇〇	小型のもので金屬の部分が短いもの
萬能鋏	五	一、〇〇	小型で刃が四本のもの



剪定鋏	箕	熊手	噴霧器	リヤカ	肥まき桶	竹箒	ホク	もつこ	天秤	肥柄杓	肥桶	如露
一	四	五	一	一	一	三〇	二	五	五	二	二	五
寄贈	一、〇〇	〇、四〇	寄贈	寄贈	一、八〇	〇、一四	一、二〇	〇、二三	〇、三〇	〇、八〇	二、二五	〇、五〇
	同前	稍々丈夫なものが可			水肥施肥に必要	清掃用	堆肥の切り返しに必要	收穫物の運搬用に供する	利用價值が多い	同前	水肥施肥には是非必要	同前

土飾	箕	草切器	移植鍬	唐箕	むしろ	シヤベル	木鎌	草刈鎌	除草器(ま鋏)	唐鋏	備中鋏	除草器
小大二	二	一	七六	一	五〇	三	二	二五	六	三	一〇	一〇
〇、五〇〇	〇、六〇	五、七〇	〇、二五	二一、〇〇	〇、二八	〇、五五	〇、六〇	〇、四五	〇、八〇	一、〇〇	〇、四二	〇、五〇
花園には是非必要なもの	數量は少くてよい	利用の價值は少いが農具の標本として必要	利用する機会が多い、金屬の柄のものが丈夫	農具の標本としても必要	利用價值が大であるから多く備へるが可	數量を多く備へるが可	同前	新に購入する際には上等のものがよい	金屬の部分の軽いもの	小型のもの	新に購入する際には稍々上等のものがよい	柄の長いもの



(ロ)農具舎

農具舎は兎角、散失、不始末に陥り易いところの農具を整理して置く所であつて、是非必要なものである。現農具舎は、縦二間半、横一間半の廣さを持つたものであつて、その一部は葺下しの構造になつてゐる。この葺下しの部分には、單に農具に限らず雜物を入れるに便である。

なほ現在農具舎は收農舎を兼ねしめてゐるのであるが、前述の廣さでは之を兼ねしめるのに狹隘を感じて居る状態である。

農具舎に於ける農具の整頓及農具の手入には常に留意せしめて、その鍬の如きは軍人の銃に於けるが如く、之を尊重して、其の取扱を丁寧にしめてゐるのである。

(ハ)堆肥及堆肥舎

堆肥はあらゆる作物に必要な肥料であつて、而も之が有機化合物である點に於て人糞尿と共に、作物栽培者の重要視するところのものである。我が農園に於てはこの堆肥の材料を作物の穀藁と、農園に生ずる雜草及水川神社の周圍參道等の落葉に仰い

てゐるのである。それ故、一本の藁、雜草と雖も、これを粗末にすることなく、堆肥舎に收める事を習慣としてゐる。水川神社周圍及參道の清掃も奉仕的勤勞作業として常に怠りなく、これを履行してゐるところであつて、その掃き集められたる塵芥、落葉の中より堆肥に適せざるものを徹去して、これを堆肥の材料としてゐるのである。而して堆肥舎の手入は専ら高學年兒童が擔當するところとして置く。

現堆肥舎は、その大きさ縦二間、横一間半の面積を有して、周圍の柱、板等は相當頑丈な建築になつてゐる。理想を言へば、その地床及腰板に當る部分はコンクリートとして堆肥より生ずる液汁の集る溜をも造ればこれに越した事はないのであるが、我が堆肥舎は、その側面が板張りであつて、地床は地面そのままのものである。

六、其 他

(イ)洗 場

洗場は、我が田園教場に於ける特色ある設備の一つであつて、收穫物も、農具も(農具は徐り之を洗ふことを奨励せず、専ら之を拭ふことにしてゐる)作業に汚れたる手



脚も、すべて此處で洗ふことにしてゐる。

(ロ)糞尿溜、水肥溜

糞尿溜と水肥溜とを、堆肥舎の東西に準備して、常にこゝに相當するものを蓄へて置き、隨時に行はれる追肥等に便ならしめてゐる。

### 三、將來の計畫

過去三ヶ年間に亘る農園經營を回想する時、あらゆる點に於てそれが教育的に効果を齎したことは誠に欣快に堪へぬところであるが、微細なる點に立ち至つて之を反省する時は未だ瑣少の遺憾これなしとしない。即ち健康の増進、勤勞精神の涵養、實物による知識の啓發、農藝趣味の養成、其他訓練の事項に關して竿頭更に一步を伸ばし、いやが上にも兒童教養の上に益せしめんと、過去の經驗を基礎に、いよく第二期計畫に向つて邁進しつつあるところである。

田園教場設立の趣旨と、これを小にしては農園經營の使命に鑑み、兒童と共に粉骨碎心の努力を惜しまざるところに、之を可能ならしめる力を藏する。

耕地の擴張、種苗の自給自足、收納舎の建設、促成抑成の栽培法開始、家畜の飼育、農園經濟の確立等は、いづれも將來に残されたる問題であると同時に、之を具體化すべく奮勵するのが、我が農園經營者の使命でなければならぬ。

### B、東京高等師範學校附屬小學校田園教場の實際

本稿は理科研究部昭和十一年七月發行の「田園教場の施設經營」より摘録す。

#### 一、我が校の田園教場

我が東京高師附屬小學校の田園教場は練馬の奥の中新井にある。八幡神社の隣地を根據地としてゐる。根據地面積約三千坪の大部分は畑であつて、一少部分に校舎物置便所等が建つてゐる。畑は學級園と共同園に大別され、學級園は更に二十二箇に分割し、各學級に分屬せしめ、其の自由經營にまかせられてゐる。一箇の面積約一・五アールであるが、各學級の兒童數は尋常科が約四十、高等科が約三十であるから、兒童一人當り尋常科は三七五、高等科は五平方メートルである。各學級に分屬せしめた學級園は尋常科にあつては六箇年



間、高等科にあつては二箇年間固定する。之れは耕作物の都合上年々變更が不便であるためである。従つて面積も一樣にしてあるのである。そのために尋常一二年では廣きに過ぎるが斯かる場合には其の一部分を適宜共同園として使用するから、児童を過勞せしむることはない。共同園は更に農作物の畑・花卉園・果樹園・竹林・教材園等に分たれ、主として上級児童の共同作業によつて經營されるのであるが、園丁の作業に屬する部分も少くない。

此の田園教場は昭和六年の五月に開始したのであるが、昭和七年の三月までは全面積三千坪の約二分の一しか使用が出来なかつた。それは前の小作人との關係から來たものである。昭和七年の三月に漸く殆んど全部の土地を引き取ることが出来たので、それから計畫は着々と進行して、昭和八年の春までに先づ一通りの完成を遂げたのである。

然るところ、その年の秋の大風にバラック建の校舎が倒潰されたので、これを起こして修繕を加へたが元々粗末な建物であつたので、見るもあはれな校舎であつた。これを見た一部五年の母の會の方々は映畫の夕の會などを開いて資金を集め、寄附されたので昭和十

年の春校舎を改築し、今や二教室と一箇のお座敷と炊事場を持つた立派な校舎を持つて居るやうになつたのである。

## 二、田園教場とは何か

田園教場とは田園に於ける教育場である。三千坪の畑を其の根據地と名づけたことによつて、これが單なる學校園でないことは推察されたであらう。田園教場は決して單なる學校園ではない。單なる園藝の實習場でもない。それも一要素ではあるが、そのみではない。根據地を圍む一帯の自然界、農場及社會が凡て重要な教育材料である。靜で美しい自然惇朴な人情等の興へる教育的影響は何物を以ても代へ難き貴重な教育材料である。一週又は二週間に一日此處に行つて、在園數時間を二時間畑仕事に費せば二時間は林間學習、一時間は附近の逍遙に費すのである。斯かる生活の貴重さは大都會に育つ兒童にとつて一層著しい。塵埃の多い空氣と紫外線の乏しい日光と騒音と雑沓の街は兒童を育てるに適當の場所ではないのである。それに引きかへて田舎の空氣の清淨なこと、日光の朗らかなこと、靜かなこと、子供を育てるには田舎がよい理由がある。都會の中流以上の家庭では營



養食物を與ふるにかゝはらず子供が丈夫に育たぬ事實が一つの證據である。これは身體上のことであるが、そのみではない。子供の精神發達のためにも田舎がよい。さればこそ近頃大都會の發達に伴つて英獨佛等には田園寄宿學校・田園家塾又は田園校舎なるものが續々と開かれて來たのである。

### 三、我が校の田園教場の由來と概況

我が校の田園教場も歐洲の田園學舎の教育と大體同様の考に基いて創めたものである。由來は古い。今から廿數年前、我が附屬小學の校舎が神田一つ橋にあつた頃、校地内に學校園を持つてゐた。棚橋教授指導の下に職員と上級の兒童が作業してゐた當時の狀況が、今も尙明瞭に私の記憶にのこつてゐる。私は高等科の兒童と共働して温床を作つた事もあつた。明治四十二年に新校舎が今の處に改築されてからも、校内に一反餘の學校園を設け、尋常三年以上の兒童は、各自半坪位の土地を分與され、そこに思ひ／＼のものを植えてゐた。共同園も一畝許あつて教授材料を作つてゐた。處が其の後數年にして本校手工科の教室を建てるために、此の學校園がつぶされてしまつた。それからは校内所々の狭い空地を

利用して、教授材料を植え、其の作業に上級の兒童をたづさはらせて來たのであるが、前の學校園に比しては實にあはれなものであつた。それも數年前に殆んど無くなつてしまつた。そこで私は何處かに畑を借りて學校園を復活させたいと思つてあちらこちらと探し廻はつたが、學校附近は地代が高く周圍は立てこんでゐて、適當の地所がない。思ひ切つて練馬に出かけた。それは昭和三年末の事である。地代は一年一反に付三十六圓位であるといふので、三反借りても百圓餘である。生徒を甘薯掘りや大根ぬきに連れて行つたときの生徒等の喜びを回想し、生徒が自ら植えたものを收穫する喜びと、それを育てる經驗を思へば、百圓は安いものである。自分の獨力で、も實現したいと、殆んど決定しかけてゐたのであるが、丁度其の時外遊の問題が起つて中止してしまつた。米國に行つて廣々とした農場を見る度に、借りかけた練馬の畑を思ひ出し、紐育に落ち着いてからも、ブルクリンの公園に children's garden が在ることを、紐育案内で見出して、それを見に行つたりしたのである。歐洲に渡つてからは、ピデール校、フレンシヤム・ハイト校等の廣い／＼校地、その中の畑等を見、獨逸でも田園寄宿學校、田園ホーム、ダルテン・アルバイツ・シ



ムール等を見て、早く歸國して前の計畫を實現したいと思つたのである。歸國後我が校の職員會に歐米教育觀を報告した時にも、自然に此の點に力を入れて話したのである。その後で數人の同僚からは非に之を實現しよう、實は先頃から國語研究席で其の問題を議し、實現の希望を持つてゐた所であるとの話で、全職員に諮り、熱心な一致を見て、愈々土地のさがすことになつたのであるが、父兄の一人中新井村に住む人から、其の附近に好適の地所があるとの知らせを受け、今の地所を見出したのである。それは昭和六年三月末のことであつた。

畑の東隣に廣い敷地の八幡神社がある。周圍は全くの農村で東南一町許の距離に水田もある。殆んど希望してゐた通りの地所であつたので、直に之を借りることになつたのである。但、前の小作人との關係で三千坪の地所を一時に引取ることが出來ず、昭和六年には三反足らずを使用したに過ぎなかつた。その大部分を各學級に分割し、僅かの部分を共同園として残した。學級園の一部には小麦大麥が又共同園にはジャガイモが植えてあつた。前の小作人が植えたのを買ひ取つたのである。

愈々仕事を始めたのは五月上旬で、各學級では茄子・胡瓜・トマト・玉蜀黍等の苗を植え、種子を蒔き始めた。地所の一端には二十八坪のバラック・六坪の物置・便所等を建て井戸を掘りポンプを付けコンクリートの足洗場を作り、農具・湯沸し・湯呑の器具を購入し、屋外教授用の携帯に便利な折疊式机・腰掛を考案製作し、黑板・黑板掛をも作つた。農夫一人を雇入れ、肥料を準備する等計畫は日々着々進行していつた。

全校の兒童約九百名二十二學級を、十團に分ち、一團一日の制を定め、毎週月曜日から金曜に至る五日間を田園教場日と定め、各團即ち各兒童は二週に一日田園教場に行くことゝなつたのである。その一日中の仕事は、農業一時間・教科學習二時間乃至三時間・晝休一時間・附近見學一時間である。教科の學習も雨さへ降らねば戸外で行ふのであるから、机腰掛黑板等を此の目的にそふやうに考案して作つた。机腰掛は一箇所に合體せしめ且つ折疊んで兒童が一年生でも片手に携げて行けるやうなものに作つたのである。大小三種其の數百十五個携帯黑板二面ある。二個學級が同時に教科學習を行ひ得るやうになつてゐる。其の後の實況を見るに教科學習は多くは八幡神社の林間で行はれてゐる。涼風徐に至る林



間の學習は夏でも極めて活潑に行はれる。畑仕事は殊に喜ばれる。殆んど裸體になつて働く。汗が流れても苦しい顔一つ見出し得ない。日光・空氣・土・生物の恵みである。汗と土によごれた身體を清涼な水で洗ふ氣持も充分に味はつてゐる。晝食のうまいことは格別である。それで組によつては二食分の辨當を持つて行き、十一時に一度、二時頃に一度、食事する組もある様になつた。晝休に神社の廣場や圃間の道、時には域外の田舎道を全く自由に馳驅する。閑靜な田舎であるから何等の危険をも感じない。附近見學も甚だしく興味を惹く。田植えを見ては田植をしてみたいといふ。牛乳牧場を見ては牛乳が飲みたいといふ。麥の收穫、胡瓜の手入、凡てが珍らしいのである。都會の兒童は斯くも自然に對して渴望を感じてゐるのである。

昭和七年の三月から豫定の三千坪を借り得たので、學級園がずつと廣くなつて、作付も時機を逸せず行はれるやうになつたので、兒童等は冬季を除いては、月二三回は此の田園教場に行つて、收穫物を持ち歸り、父母に手柄をほこつてゐる。この頃は胡瓜はいふまでもなくトマトも熟し始めた。夏休には之れ等の收穫を如何にするか、問題である。在京の

兒童は一定の日にその收穫のため、出かけるであらう。六月下旬には共同園の馬鈴薯を各自四株づつ收穫したが、多いものは四十餘も採つて、歸りの荷物の重いのに苦しんだ子供も多かつた。(安東記す)

#### 四、田園教場建築物

田園教場には、實習園の外に、教室一棟、納屋二棟、便所一棟、合計四棟の建築物がある。その概要を左に解説する。

##### (一) 教室 (二教室)

イ 廣 さ

縦五間横四間の普通教室型である。一學級の兒童を容れるに充分なる廣さを有する。

ロ 床

床面は木材を用ひず。コンクリートの土間で、土足のまゝ出入し得る様になり、縁側のコンクリート面及び畠の地面と高さ略々等しくせり。

ハ 窓



教室の左側全面は雨戸を以て夜間の用心戸締に充て、これを開けば全面外界と連る様にせり。教室の右側は高窓にして、單に採光通風のみ用に充てる。

ニ 黒板

教室の壁面に固定せるものにして、長さ一間半、高さ四尺のものなり。

ホ 教卓

普通教室に使用せるものと同様、高さ二尺五寸、幅二尺、長さ三尺にして、抽出二個を有する、堅牢なる構造のものなり。

ヘ 児童用机

長さ六尺、幅三尺、高さは中學年用に適せしめる様にし、作業臺型式にして、抽出、棚等の附屬構造を有せず、これに掛ける児童數は一定せざるも、下學年には八人用、上學年には六人用位を適度とする。各教室八脚宛あり。

ト 椅子

椅子は板製にして椅子木を有せず。長さ一間にして机の長さと同しくせり。机一脚に對

して、椅子二脚として、向ひ合ひて机に掛け得る様配置せり。

チ 物置棚

教室の後方及び右側窓下には、各二段の物置棚を固定せり。児童の持物を一時のせ置くために利用する。

リ 使用法

田園教場に於ては、戶外作業を多く課するけれども、普通學科の授業をも行ふが故に、教室はこのために使用される。尙その他にも利用の場合が多い。

(二) 疊室

イ 廣さ二十疊

ロ 構造

一間の床、押入、三尺の廻り縁側、三尺の平書院を有する日本間である。

ハ 使用法

主として傷病者の休養室、看護室に充てるのであるが、その他、父兄附添人等の休憩室



教師の作業服着替場とする。

(三) 湯沸場

廣さ二間四方の、教室に接続せる小室である。この室には戸棚一本を置き、茶碗類、盆類、ざる等、兒童が食事をする際、湯の配給に必要な道具類を保存せり。室の一隅に約二十立容位の湯沸釜を置く。湯沸し及び配給は常設農夫がこれをなす。

(四) 洗ひ場

イ ポンプ

打抜ポンプ一個がある。深く打つてあるから水質は佳良である。東京地方では水道があるから井戸に關する知識が乏しいので、そのための教授直觀物ともなる。これを利用して地下水の利用や、井戸水使用上の實際知識等を指導する。

ロ 洗ひ物

農園の收穫物などを洗ふ場所で、幅三尺、長さ一間のコンクリート構造のものである。この洗ひ場に續いて、幅三尺、長さ二間、深さ一尺のコンクリート構造の流し場がある。

それは主として足洗ひ場として用ひるものである。

(五) 便所

便所は寮舎に接続せるもの一個所と、獨立せるもの一個所とがある。各女子便所二個所宛他は男子用である。

(六) 納屋

イ 教室に隣接せる二間に三間のものには、兒童用折疊机、折疊式黑板、農具等を保管するに用ひる。

ロ 教室に遠き、三間に五間の棟には、主として肥料その他栽培用の材料を保管するに用ひる。

(七) 屋外教授用具

イ 屋外教授用兒童机腰掛は折疊式とし、下級兒童と雖も、一人にて自由に持ち運び得る重量に作つてある。備附数は約百貳拾脚、約三學級分である。

ロ 黑板



屋外用の黒板は一間に三尺の廣さを有し、架に掛ける様にしてある。架は折疊式脚立型で、運搬にも据置にも便である。

ハ 採集用具

昆蟲採集用具としては捕蟲網六本、毒壺六個、水棲動物採集用具としてはタモ網を用意し、植用採集用には農具と兼用の根掘鋤等がある。

(八) 救急設備

本校備附の遠足用携帯救急箱一個を常設して置く、その内容物の主なるものは次の如くである。

ハサミ、繃帯、ガーゼ、三角巾、ピンセット、アルコール、絆創膏、デルマトール、沃度丁幾、アンモニヤ水、硼酸軟膏、體溫計等。

五、田園教場の面積

(一) 總面積 九七・七四アール

(二) 内 譯

學級園の面積

三〇・九アール

横六メートル 縦二十五メートルのもの (一・五アール) 十七區劃

横六メートル 縦十八メートルのもの (一・〇八アール) 五區劃

共同園の面積 三四・八二アール

果樹園・竹藪等の面積 一〇・二アール

建築敷地 二・四二アール

道路 一九・四アール

五、田園教場の諸經費

田園教場の共同費用は學友會費の豫算に計上し、其の豫算内で支拂つてゐるので、次に昨年度分(昭和十年度)を例示することにする。

(一) 農夫手當

豫算 二百七十五圓也

内譯 四・五・六・七・八・九・十・十一・三月 毎月二十五圓



十二・一・二月 毎月 十圓  
年末手當 二十圓

(二) 土地借用代

豫算 參百圓也

土地借用代は六月及び十二月の二期に分けて分納してゐる。

前期分 壹百五十四圓四十二錢

後期分 同

(三) 肥料其の他

豫算 七百圓 (但この中三百圓は設備を擴充したり果樹を植ゑるためのもので

例年は約四百圓である。)

支出内譯

肥料代 約二百六十圓 (米糠・藁灰・下肥料・石灰等)

種苗代 約百五十圓 (果樹・種子代等)

人夫代 約五十圓

電燈代 約二十圓

建物修繕費 約 十圓

八幡神社寄進 十圓

設備費 四十圓 (桌子・椅子・湯沸等)

其他 約七十圓

三年以下では田園教場で學科をするといふ事は極めて少い。殊に二年生や一年生ではさういふ事は皆無といつても良い位である。それで、さういふ場合には他の上級が更に一組や二組行つても教室その他に支障が少いから、結局學級數としては五學級位同日に行く事も往々ある。

六、學級園の經營

田園教場に附屬する農園は改めて申すまでもなく學級園と共同園とに分けてあり、學級園ではそれ／＼特殊性を發揮していろ／＼な農作をしてゐる。



或る學級園では草花を多く作るもあり、また他の學級園にはナス、キウリ、タウモロコシがよきくと伸びてゐるところもある。或は又時なし大根や二十日大根、落花生などを作つてゐるところもある。

學級を數人づゝの分團にしてさせてゐる組もあれば、學級園を四十位に分割して兒童一人一人に一坪あまりの土地を提供して一坪農業式にやらせてゐるところもある。

學級園は二年生の時割りあてられると、大體六年生まで同一の場所を持つ事となるから右の様な色々なやり方を學年の進むのに連れて様々に變化してやつてゐる學級もある。

一年生だけにはまだどうもうまくは出来にくいから、他の學級よりは面積も少く、約三分の二位にしてあるし、その手入も教師や專屬の庸入の農夫を煩はす事が多い。

然し次第に上級になれば、堆肥や、練肥（人糞尿や灰や腐植質や馬糞やいろ／＼ねりあはせた肥料）などを取扱つたり、播種、移植、除草、耕耘……と、都會の子供ではあるが拙い手附ながらも農村の子供の眞似事をさせてゐる。

#### 七、楽しい共同園の收穫

右の様にして學級園を經營し、そこにも收穫があるが、何しても都會の子供のやる事ではあり、立派な收穫をあげるといふ事は困難である。

幸ひ專屬傭の農夫がゐて、共同園を經營しててくれるので、そこに出来る四季をりの收穫物は、子供等にとつては無上の楽しみである。

例へば、五月頃には豌豆が袋に一ぱいづゝ、摘み取る時間が足りない程に實つてゐる。

六月にはジャガイモが一人に數株づゝ分配されるので、低學年の子供など、歸りに田園教場から中村橋の驛まで擔いで歩くのに大汗をしぼるといふ様なわけである。

右の外そのをり／＼に應じて、大根二本づゝに聖護院大根二つ宛とか、人參數本づゝに、サトイモ三株づゝとか、さういふ風である。この共同園の收穫は兒童の最も待望して歓迎するところの一つである。

#### 八、田園教場附近での郊外學習

田園教場から一步出ると、そこには八幡様がある。

子供は田園教場に到着すると荷物をおいて服装を正し、八幡様のお前に整列してお辭儀



をする事にしてゐる。

「八幡様お早うございます」

「また今日もお邪魔させていただきます」  
など、口ずさむ子供もある。

一日の農園生活を終へて歸路につく場合にも、朝と同様八幡様にお辭儀をする。

斯くして知らず／＼の間に作法と共に敬神の觀念を養成する様にしてゐる。

野球やその外いろ／＼の運動、八幡様の横の一寸した廣場や、境内では野球をしたり、フットボール遊びをしたりする事もある。

#### 林間學習

前にも記したやうに、田園教場の教室の外八幡様の森の中に、輕便机腰掛を運んで林間學習をするのはいつもの事である。

#### 青木牧場見學

田園教場から南の方百二、三十米行つたところに牧場があつて、ホルスタインなどの乳

牛が十頭ばかり居る。をり／＼にこの牧舎を訪れて牛舎の様子を見たり、牛がどんな事をしてゐるが、どんな御馳走を食べるか……などを見學する。

#### 小川での生物觀察

農園の近くには小川がある。こゝにはメダカ・ミヅスマシ・アメンボウ・ゲンゴロウ・カヘル・ミヅカマキリ・コオヒムシ・コミヅムシ・マツモムシなどいろ／＼の水中動物があるし、水邊の植物もいろ／＼澤山に存在する。こゝでは大都會の子供も思ふ存分に自然と握手する事が出来る。

早春既にミヅスマシが見られるし、晩秋なほメダカの浮くのを見つける事も出来る。

その他

#### 苗代——稻の播種、

田植、

稻のみのり——かゝし、

イナゴや、コホロギや、バッタ、



種子の撒布、

春草の萌え出るところ、

秋の紅葉、

畦畔などにあるクヌギ林でのドングリヒロヒ、

武蔵野の景観—富士—森—丘……、

實にいろ／＼の自然物、自然景観に接せしめる事が出来る。

お百姓の畠にあるキウリやナス、大根などの出来ばえと、學級園に於けるそれら、及び

田園教場にゐる農夫の作物と比較対照して、子供はいろ／＼な事を感じる。

秋になつて木犀のよい香り、サザンカの可愛い姿に田家の興趣を感じさせる事も出来る。

#### 農家の生活状態見學

田園教場の附近には、かうした農家がいくらも散在するので、秋の取入、麥秋などに於ける農家の生活實況を見學させる事としてゐる。例へば讀本文の「オヂサンの家」の實況

を見學させること等それである。

#### 九、田園教場に行くときの注意書

- (一) 驛夫・運轉手・車掌等ニカラカハヌコト。
- (二) 村ノ人ヲ見テ批評シタリ笑ツタリセヌコト。
- (三) ヨソノ畑ニ入ラヌコト。
- (四) 學校ノ畑ノ中デモ畑ヲフミアラサヌヤウニ氣ヲツケルコト。
- (五) 八幡様ノ境内ニ入ツタトキ。  
紙屑ナド、チラサヌコト。
- 石トウロウ、鳥居等ニ登ツタリ、ダキツイタリスルト、倒レテ壓シ殺サレルコトガ  
アルカラ、決シテ、ソナナコトヲセヌコト。
- オ宮ヲヨゴサヌヤウ、氣ヲツケルコト。
- (六) 雜木林ノ中ニハヤダケノソギ立テタノガアルカラ、氣ヲツケルコト。
- (七) 畑デ鋏・鎌ナド使フトキニハ、他人ニケガラサセヌヤウ充分氣ヲツケルコト。



- (八) 使ツタ道具ノシマツヲヨクスルコト。  
 (九) 農夫ニメイワクラカケヌコト。

以上の様な注意は田園教場に於ける道徳の實踐教育といふ事が出来よう。

一〇、田園教場の作物概表

田園教場や學校園で實際に栽培して参りました作物類や花卉類や其他教材に連絡ある植物などをあつめて、ごくわかり易い表にして見ました。

- (一) 栽培表 作物類として夏及秋の蔬菜類、禾穀類、荳菽類、工藝作物類、花卉類として一二年生のもの、多年生のもの、球根類のもの等について大體栽培要項を一覽し。  
 (二) 各學年栽培一覽表 これで大凡無理なく栽培種目を選択し得る様にしました。  
 (三) 教材園栽培目錄 栽培し難くして、教材に連絡あるものは教材園にあつめて觀察させる様にいたしました。

此の中参考の爲月別栽培一覽表と、各學年配當表を示すこととする。

月別栽培一覽表

五	四	十	十
<p>○發芽した草花類は幼苗を假植してしっかりとした苗とする。          ○朝顔は上旬に蒔く。          ○葉鶏頭、百日草等の植付。          ○菊は挿木する、小菊は植込む。</p>	<p>○春の彼岸前後より蒔き出すべき草花類を蒔き後れぬ様播種する。          ○日本櫻草、香堇等の株分けをなすべきものを株分けして移植する。          ○バラ、牡丹等は越年した枝の芽が伸びようとするから懷枝、弱枝を剪定する          ○前月に引續き一年中で一番多忙の月でキャベツ、甜瓜、小蕪、夏大根、刀豆等を播種する月である。甜瓜、茄子、トマト等は定植する。          ○豌豆、白菜、二十日大根等は收穫される。</p>	<p>○前月に引續き春咲きの草花を蒔く。          ○前月同様球根類の植込み。          ○ダリヤ、カンナ等はそろ／＼掘り上げて圃ふ。          ○莢ふんどう、小松菜、蠶豆等の播種。          ○人参、牛蒡、秋茄子、里芋等の收穫。</p>	<p>○球根類は秋植の最後で、なるべく早くする。          ○ものによつて霜除、フレイム等の利用によつて防寒する。          ○果樹類へは人糞尿、魚肥、大豆粕等樹</p>



月	六	月
<ul style="list-style-type: none"> <li>○大菊の挿木。</li> <li>○秋植みの花を終った球根類は掘上げに着手する。</li> <li>○盛んに雑草の伸びだす頃であるから注意して除草中耕のこと。</li> <li>○人参や晩生枝豆等を播種する、茄子、胡瓜、トマト等の施肥中耕。</li> <li>○乾燥を防ぐ爲に芋やじゃが等に敷藁をする。</li> <li>○つるいんげんやながいもに支柱をくれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○そろ／＼雑草が繁り出すからどん／＼除草する。</li> <li>○里芋、じゃがいも、キャベツ等の植込</li> <li>いんげん、枝豆、落花生等の播種。</li> <li>○茄子、トマト、南瓜等の定植。</li> <li>○胡瓜、茄子、トマト等の施肥中耕。</li> <li>○早く植みたいんげんや苺等は収穫される。</li> </ul>	
月	二	月
<ul style="list-style-type: none"> <li>○防霜、防寒設備と掃除。</li> <li>○休閑地の耕起と施肥によつて凍結、風化を促し、春季の植込に備へる。</li> <li>○ほうれん草、白菜、大根、葱等の収穫物は殆んど下旬に収穫を終り、右二項の入手位で他は入手の必要なし。</li> <li>○冬季の病蟲害駆除は春の千萬倍にも相當するといはれてゐるから、防除作業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○勢の弱つたものへ施肥しておく。</li> <li>○蠶豆、小松菜等は上旬中に播種する。</li> <li>○大根、燕苔、甘藷、ほうれんさう等の収穫。</li> <li>○京菜、春菊、ほうれん草、葱、小松菜その他生育中の小燕等には夏よりも濃い水肥を施し、豌豆、蠶豆、葱、苺等の根本には、糞殻、藁灰、堆肥等を敷いて霜凍を防ぐ。</li> </ul>	

月	七	月
<ul style="list-style-type: none"> <li>○秋播きの草花の採種。</li> <li>○菊は今月中に定植を終へること。</li> <li>○油粕の薄い液肥を花卉類に施す。</li> <li>○ダリヤは秋に備へる爲幹の切込みをする。</li> <li>○鉢植のものは乾燥して困るからよく灌水する。</li> <li>○冬用のキャベツ、小燕苔、人参の播種</li> <li>○春蒔蔬菜類の収穫。</li> <li>○夜盗蟲、瓜守、金龜子等の害蟲に注意。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝顔や其他花卉類で採種すべきものを大切にとつておく。</li> <li>○雑草にまける時であるから常に注意して除草する。</li> </ul>	
月	一	月
<ul style="list-style-type: none"> <li>○一般培養土の調製。</li> <li>○支柱類の修理。</li> <li>○肥料準備(栽培表に基いて調製し始む)</li> <li>○苗床準備—温床茄子、胡瓜等のもの。</li> <li>○収穫—ほうれん草、小松菜、葱等。</li> <li>○菜園の入手としては殆んどなく、寒害の豫防と補肥、中耕位。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○秋蒔草花の移植と株分。</li> <li>○果樹類には本年度の元肥を施肥する。</li> <li>○先月中用意の苗床に、胡瓜茄子等を播種する月。</li> <li>○前月に耕した畑は、この月にもう一度</li> </ul>	



九	月
<p>○ 灌水を怠つてはならない。灌水は成可く日中を避けること。</p> <p>○ 秋大根、燕青、白菜等の播種及び播種したものの、間引。</p> <p>○ 甘藷蔓返し。</p> <p>○ 蕃茄、胡瓜、西瓜、南瓜、枝豆、里芋、人参等の收穫。</p> <p>○ チューリップ、ヒヤシンス等春咲球根をそろく植込む。</p> <p>○ 早春開花させる草花を彼岸を中心として播種する。</p> <p>○ 花木の苗は春から夏にかけてさした苗等は鉢なり畑なりへ植ゑ出す。</p> <p>○ 前月に引續き燕青、小松菜、ほうれんさう、キャベツ等の播種。</p> <p>○ 葱の採種。</p>	<p>○ 灌水を怠つてはならない。灌水は成可く日中を避けること。</p> <p>○ 秋大根、燕青、白菜等の播種及び播種したものの、間引。</p> <p>○ 甘藷蔓返し。</p> <p>○ 蕃茄、胡瓜、西瓜、南瓜、枝豆、里芋、人参等の收穫。</p>
三	月
<p>○ 彼岸を中心として春蒔草花の蒔付け。</p> <p>○ 秋蒔きの越冬に苗は花壇、鉢等に植ゑ込む。</p> <p>○ 球根類ダリヤ、カンナ、グラジオラスの植込み。</p> <p>○ 播種—冷床ではキャベツ、葱等、露地では夏大根、白菜、三寸人参、二十日大根、ほうれん草、春蒔豌豆、小燕青等。</p> <p>○ 苗床に蒔いた茄子胡瓜等は生長するにつれて假植しガツチリした苗とする。</p> <p>○ 馬鈴薯は植付け、甘藷の種蒔は温床に伏せ込み、不定芽を出させて苗を作る。</p>	<p>耕して土を碎いて整理する。</p> <p>○ 秋蒔の野菜や、採種用の株等には中耕追肥をする。</p> <p>○ 茗荷、蒟、うど、アスパラガス等の宿根蔬菜にも充分施肥しておく。</p> <p>○ 落葉果樹類はある程度の冬季剪定をこの月に行つておく。</p>

月
<p>○ 前月同様間引。</p> <p>○ 里芋、三寸人参等の收穫。</p> <p>○ 苺の定植。</p>
月
<p>○ 前年から残つてゐる晩蒔大根、大燕、牛蒡、ほうれん草、小松菜、京菜、葱等は芽が出始めるから、四月上旬までに全部收穫する。</p>

各學年栽培一覽表

一	二	三	四	五	六	高等科
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	コスモス 鳳仙花 菊 月見草 朝顔 タネ カリン ダヤ 百合











291.  
22

12年12月15日 131

天	地								

閱覽濟



終

